

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(1) 石巻市の概要

①位置・地勢、気候

- 石巻市は、本州の東北、宮城県北東部の太平洋沿岸地域に位置し、554.78 k m²の市域を有する県下第二の都市である。
- 広域交通網として、鉄道はJ R石巻線、J R仙石線、J R仙石東北ライン、J R気仙沼線が整備されており、道路網では三陸縦貫自動車道が供用されている。東日本大震災以降、J R気仙沼線では柳津駅から気仙沼駅までの間がB R Tによる運行となっている。三陸縦貫自動車道は、下り方面では石巻港 I C以降は気仙沼市まで開通しており、宮古市まで順次供用開始となる予定である。
- 市街地は、石巻湾の旧北上川河口付近に広がっており、市域東部から牡鹿半島にかけては、北上山地の最南端に位置し、風光明媚なリアス式海岸となっている。
- 気候は海洋性の気候であり、内陸部と比較すると寒暖の差が少なく、東北地方のなかでは1年を通じて比較的温暖な気候となっている。

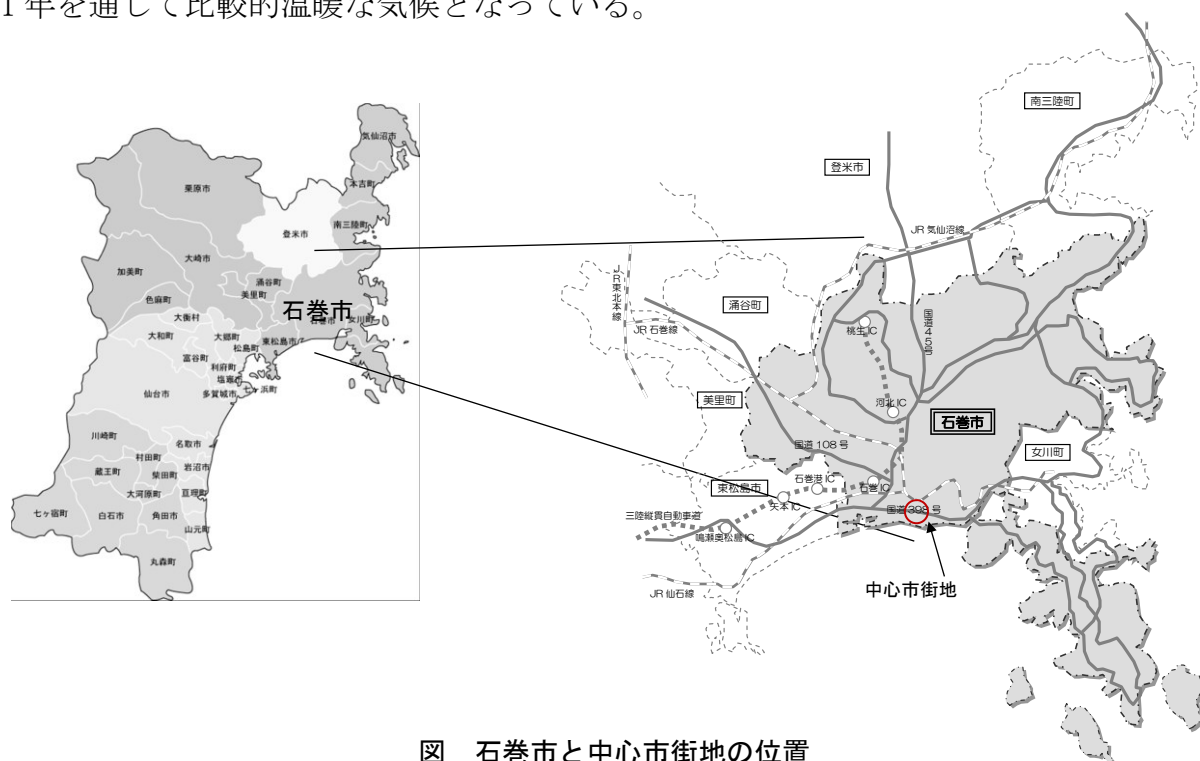


図 石巻市と中心市街地の位置

表 石巻市の気象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温 [°C]	1.0	1.5	4.4	9.5	14.3	18.2	21.7	23.5	20.5	14.8	8.9	3.5
降水量 [mm]	37.9	33.9	69.0	92.6	93.2	113.0	145.2	115.4	151.3	19.8	66.6	42.4
積雪の深さ(最大) [cm]	9	11	6	1	-	-	-	-	-	-	1	4

資料：仙台管区気象台 HP（石巻市地方気象台 統計期間 1988～2018年 資料年数 30年）

◆調査地点：北緯 38 度 25.6 分 東経 141 度 17.9 分 標高 42.5m

② 沿革

- 縄文時代は、市内に残る国指定史跡の沼津貝塚をはじめ多くの遺跡等から、海と山の幸に恵まれ当時としては豊かな生活であったことがうかがえる。また、石巻地域は、数々の遺跡の出土品等から人々の交流の場であったこともうかがえ、平安時代の終わりごろには、平泉と北上川舟運で結ばれその外港であったことから、古代・中世から交通の結節点としての役割も担っていたと考えられる。
- 江戸時代初め、新田開発が進む一方で、この豊かな米作地帯で生産される米の最大積出港として整備され「奥州最大の米の集積港」として、全国的に知られた交易都市だった。また、リアス式海岸の沿岸部は、豊富な漁業資源を持っていることから沿岸漁業が盛んで、遠隔地交易も営んでおり海運・舟運基地として大変な賑わいを見せていた。
- その後、金華山沖漁場を背景に漁業のまちとして栄えたが、明治維新以後、鉄道の発達や工業化への乗り遅れなどにより、往時ほどの賑わいがなくなり、産業基盤・生活基盤の整備が急がれた。このため、交通網の整備、魚市場の設置や水産加工業の振興、工業の誘致などが行われ、昭和 39 年（1964 年）には新産業都市の指定を受け石巻工業港が開港するなど、工業都市としても発展を遂げてきた。
- 近年は、平成元年に石巻専修大学が開学するとともに、三陸縦貫自動車道の石巻までの延伸、石巻トゥモロービジネスタウン分譲開始、石巻港の整備など、21 世紀を迎え、さらなる発展が期待された。
- 平成 17 年 4 月 1 日には石巻地域 1 市 6 町が合併し、新・石巻市として新たなスタートを切った。
- 平成 23 年 3 月 11 日に発生したマグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震による激しい揺れとその後沿岸部に襲来した巨大津波等によって、死者数 3,184 人、行方不明者 417 人（いずれも令和元年 10 月末日時点、住民基本台帳に基づく）にのぼり、壊滅的な被害を受けた。その後、復旧・復興の道標となる「石巻市震災復興基本計画」を平成 23 年 12 月に策定し、「新しい石巻」の創造を目指してまちづくりを進めている。

③ 東日本大震災被災状況

- 平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分、東北地方太平洋沖地震が発生し、国内観測史上最大となるマグニチュード 9.0 震度 6 強の激しい揺れと、その後襲来した巨大津波は、本来市民を守るべき防潮堤を破壊し、多くの人命を奪い、住まいや働く場、道路、港湾、漁港財産が失われた。
- 津波の高さについて、鮎川浜で 11m とされるほか牡鹿など半島部などで 10m 以上、中心市街地でも旧北上川を遡上した津波により 2m 以上とされる地区があった。
- 平野部の約 30%、中心市街地を含む沿岸域の約 73 km²が浸水し、被災住家は 56,702 棟、うち約 35%の 20,039 棟が全壊（平成 28 年 9 月 9 日警察庁発表）となった。
- 沿岸域においては、工場や事業所をはじめ、学校・病院・総合支所等の公共施設が壊滅的な被害を受け、本市全域でライフラインが停止し、都市としての機能が失われた。
- 平成 23 年 3 月 13 日午後 11 時現在の避難所及び避難者数は、市で把握できた限りで、合計 131 カ所、43,559 人であった。
- 地震に伴う地盤沈下も深刻で、牡鹿地区鮎川の 120cm 沈下をはじめ、市内の広範囲で地盤沈下や液状化が発生した。
- その後も大きな余震は際限なく発生し、平成 23 年 4 月 7 日にはマグニチュード 7.1 の最大余震により震度 6 弱を記録するなど、甚大な被害がさらに拡大することとなった。



図 東日本大震災による被災の様子

④ 東日本大震災からの復興

- 石巻市では、平成 23 年 12 月に今後 10 年間における復旧・復興を実現していくための道標となる「石巻市震災復興基本計画」を策定した。
- 基本理念に「災害に強いまちづくり」、「産業・経済の再生」、「絆と協働の共鳴社会づくり」を掲げ、各種事業に取り組んできた。市街地エリアにおいては、数十年から百数十年に一回程度発生する津波（レベル 1）からの防御を図るため TP7.2m の海岸防潮堤を整備した。最大級の津波（レベル 2）については、完全な防御は困難とした上で、高盛土道路、避難路、避難ビルを整備することとした。
- 海岸防潮堤と高盛土道路に囲まれたエリアは原則非可住地（災害危険区域に指定）として、公園、産業ゾーンとしての整備が進められている。
- 災害危険区域は防災集団移転促進区域として定められ、内陸部の市街化調整区域を区域編入することにより移転先を確保し、新市街地（新蛇田地区、新蛇田南地区、あけぼの北地区、新渡波地区、新渡波西地区）が整備された。
- 中心市街地においては、震災前からの内陸部への人口・店舗の移動が進む中で、震災により廃業による一層の店舗の減少と、内陸部への人口・店舗の移動がさらに進むという事態がもたらされた。内陸部での商業機能の集積が進む中で、それとは異なる中心市街地が果たすべき機能をより明確に打ち出していく必要性が求められている。

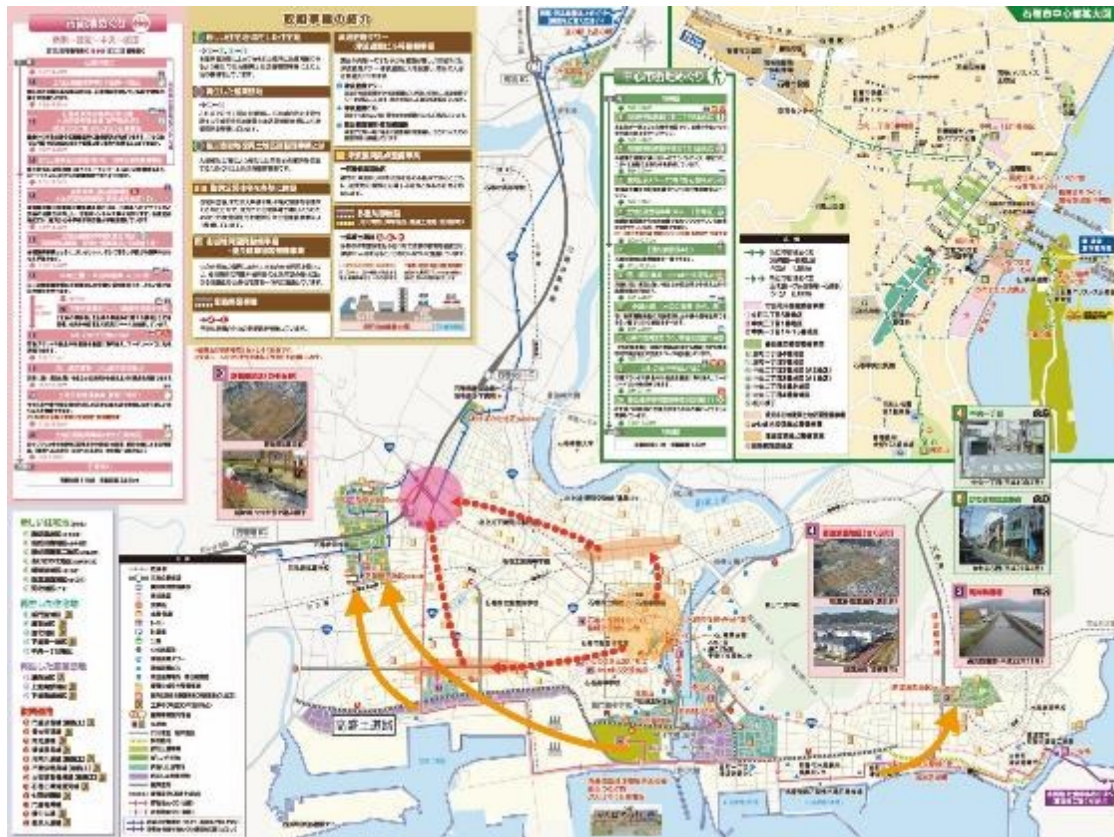


図 旧市内における復興事業位置図

(2) 中心市街地の成り立ち

- 北上川を通じて集められた米などの物資は、石巻港から千石船で江戸へと運ばれるなど港町として栄え、さらに中心市街地から南東の旧北上川河口付近に、藩政廃止によって旧武士や諸国からの商人が流れ込み、民営米屋などの店舗で賑わった。
- 明治の始めから順調に発展してきた石巻も、明治 24 年（1891 年）東京－青森間の鉄道開通後、幹線からはずれ、また石巻港が旧北上川河口部に位置しており、大型蒸気船が入港できないことから急激に衰え始めた。
- 大正元年（1912 年）に仙北軽便鉄道（現在の J R 石巻線）、大正 14 年（1925 年）に宮城電鉄（現在の J R 仙石線）が開通すると、現在の中心市街地内にも商店が立地するようになった。
- 戦後の復興においても、石巻駅前から中瀬方面にかけて商店が増加し一大商圈を形成するようになった。
- しかしながら、平成 8 年にはダックシティ丸光石巻店が閉店、平成 20 年にはさくら野百貨店石巻店が閉店するなど大型店の撤退が相次ぎ、中心市街地は次第に求心力を失っていった。
- 中心市街地の活性化を目指し、平成 7 年に当時の石巻市長と故石ノ森章太郎氏の会談をきっかけに「マンガを活かしたまちづくり」が始まり、平成 9 年にはマンガランド基本構想が策定された。
- 平成 13 年には石ノ森萬画館が中瀬にオープンし、商店街（石巻マンガロード）へのマンガモニュメントの整備等が進められてきた。平成 22 年には石巻市中心市街地活性化基本計画が策定され、食と萬画(マンガ)を活かしたまちづくりが基本方針として据えられた。



図 震災前の中心市街地の様子

- 平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、中心市街地はほぼ全域が浸水し大きな被害を受けた。それまでのまちづくりは一旦中断せざるを得ず、官民協働による中心市街地のまちづくり計画案の作成や仮設商店街の整備が行われた。
- 津波復興拠点整備事業や市街地再開発事業を始めとした複数の復興事業が実施されたことにより、復興に向けた市街地の整備が進められてきた。
- 商店街においては、多くの店舗が廃業を余儀なくされただけでなく、立町大通りのアーケードの撤去と街路灯の整備、中央一大通りの道路拡幅（被災市街地復興土地区画整理事業）などにより街並みが大きく変わった。
- また、旧北上川堤防の整備、内海橋の架け替えにより中心市街地内の交通動線も変化している。



図 震災後の商店街を中心とした復興まちづくりの様子

(3) 中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況

① 歴史的・文化的資源

- 北上川を通じて集められた米などの物資は、石巻港から千石船で江戸へと運ばれるなど港町として栄え、さらに中心市街地から南東の旧北上川河口付近に、藩政廃止によって旧武士や諸国からの商人が流れ込み、民営米屋などの店舗で賑わった。
- 江戸幕府は貨幣経済の急速な発展に対応し、北上川の船運によって原料や燃料が集めやすかったため、石巻に享保 13 年（1728 年）銭座が整備され、「寛永通宝」や「仙台通宝（撫角銭）」などが作られるようになった。なお、JR石巻駅前には「鑄銭場」という地名が残っている。
- 羽黒町の鳥屋神社、住吉町の住吉神社、永巖寺、寿福寺などの社寺が見られる。
- 中瀬公園内には、萬画（マンガ）による地域文化の発信拠点、市民が交流できる「マンガで結ばれる“まちづくりステーション”」として位置づけている石ノ森萬画館がある。現存する木造教会では国内最古の建物である旧石巻ハリストス正教会教会堂が公園内にあり、震災により大きな被害を受けたが移築・復元された。
- また、中瀬には、幕末のころから娯楽を提供してきた映画館「岡田劇場」があったが、震災による津波で消失した。
- 住吉公園は、かつては船渡しの場で、芭蕉と曾良も訪れたことがあるところで、近くには、石巻の地名の由来にもなっている「巻石」という小さな岩がある。
- 中心市街地内の中央三丁目には、昭和 5 年（1930 年）に竣工した、木造 3 階建てスペイン瓦葺きの旧観慶丸商店がある。東日本大震災後の平成 25 年、所有者から市へ建物の譲渡が行われ、平成 27 年には石巻の歴史・文化を象徴する施設として、石巻市有形文化財に指定された。



図 旧石巻ハリストス正教会教会堂（左）と旧観慶丸商店（右）

②景観資源

- 旧北上川河岸には、親水テラス等が整備され、水辺と一体的な景観が形成されていたが、震災により大きな被害を受け、復旧に向けた取り組みが行われている。
- J R石巻駅から石ノ森萬画館までの約 1km の間に石ノ森キャラクターのモニュメントが整備されている石巻マンガロードがある。
- 湊町としての街並みを残していた旧北上川河岸は、震災により甚大な被害を受け、多くの建物が流出・損壊した上に、河川堤防の整備により川沿いの建物すべてが取り壊された。震災後、旧北上川沿いには堤防が整備され、石巻の新たな景観を作り出している。特に中心市街地に含まれる中央地区は堤防と一体となった広場空間の整備や隣接する建物と堤防がデッキでつなげられるなど、水辺と一体となった景観づくりが行われている。



図 石巻マンガロードマップ (H31.3 時点)



図 旧北上川堤防の様子

③社会資本・産業資源

- 広域交通網として、鉄道はJ R石巻線、J R仙石線が整備されているほか、仙台～石巻間の高速バス（宮城交通）も運行されている。仙石線にはマンガキャラクターをラッピングした「マンガタンライナー」が、高速バスには同様にマンガキャラクターや石巻の観光情報がラッピングされたバスが運行されており、石巻へ訪れる人たちの楽しみの一つとなっている。
- 本市の特産品としては、日本酒や笹かまぼこ、サンマ、カキやホヤといった水産物があり、各店舗や観光物産情報センターなどで購入することができる。震災後は、商品ラインナップの増加やパッケージデザインの向上など商品の高付加価値化が活発に行われており、BtoC への移行など販路拡大が目指されている。

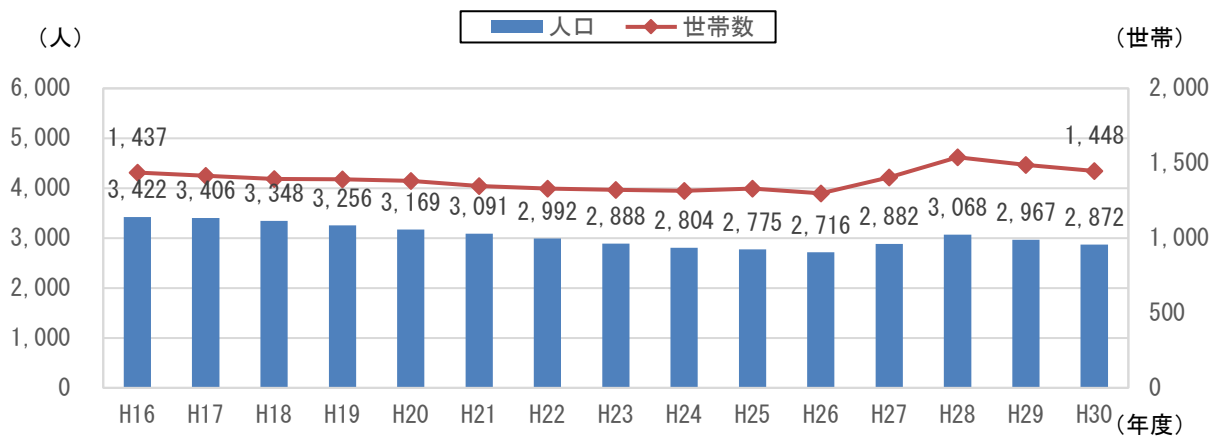


図 マンガタンライナー（左）と震災後新たに開発された水産加工品（右）

(4) 中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析

① 人口・世帯

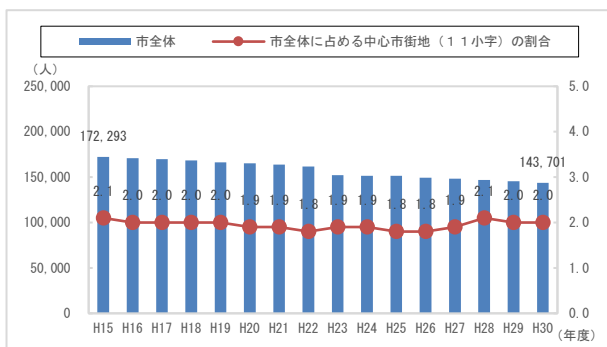
- 石巻市全体の人口は減少傾向にあり、なかでも平成 24 年は震災の影響により大幅に減少している。中心市街地については、平成 27 年までは減少傾向にあったものの、復興公営住宅の整備や市街地再開発事業に伴う分譲住宅の整備等により増加に転じ、平成 29 年には 3,068 人まで増加したが、その後再び減少傾向にあり、平成 31 年 3 月末日時点で 2,872 人である。
- 市全体の世帯数は増加基調にあり、震災の影響で平成 24 年に減少したものの、翌年以降再び増加している。中心市街地については平成 27 年まで減少傾向にあったが、人口と同様に増加に転じたものの、平成 29 年からは減少傾向にあり、平成 31 年 3 月末日時点で 1,448 世帯である。
- 震災以降、人口・世帯数ともに市全体に占める中心市街地の割合は横ばいの傾向にある。



資料：「住民基本台帳（各年度 3 月末日現在）」

※11 小字：中央一丁目・二丁目・三丁目、中瀬、立町一丁目・二丁目、千石町、鑄銭場、穀町、日和が丘一丁目（一部）、住吉町一丁目（一部）。但し、日和が丘一丁目、及び住吉町一丁目全て計上。

図 中心市街地（11 小字）の人口・世帯



※中心市街地は、日和が丘一丁目、住吉町一丁目全て計上

資料：「住民基本台帳（各年度 3 月末日）」

図 石巻市全体の人口とそれに占める中心市街地人口の割合

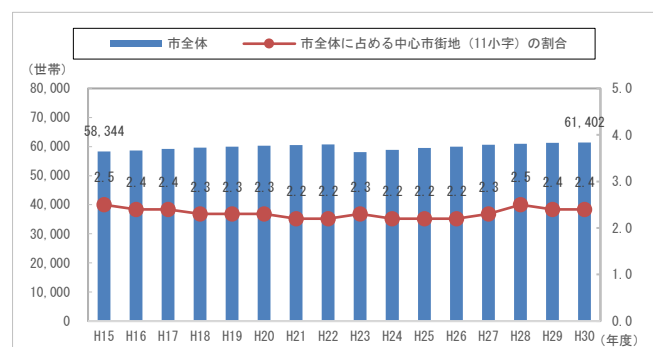
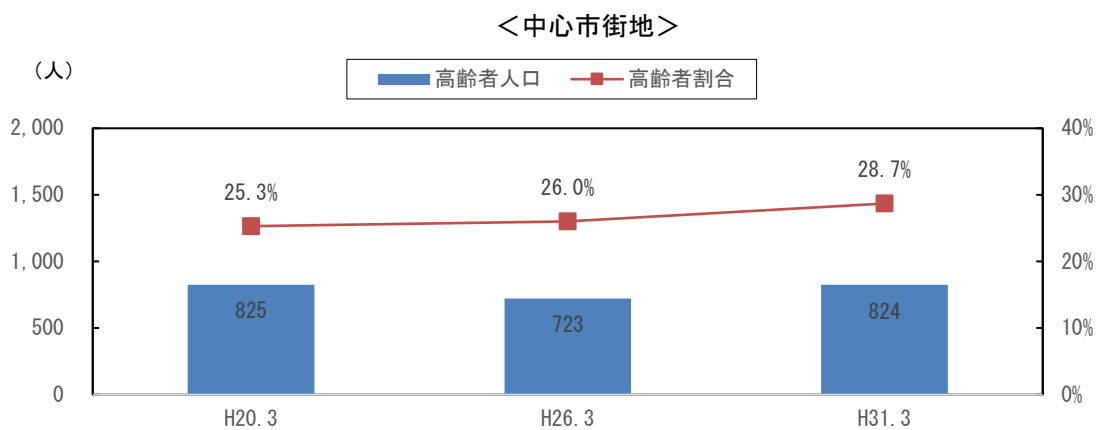
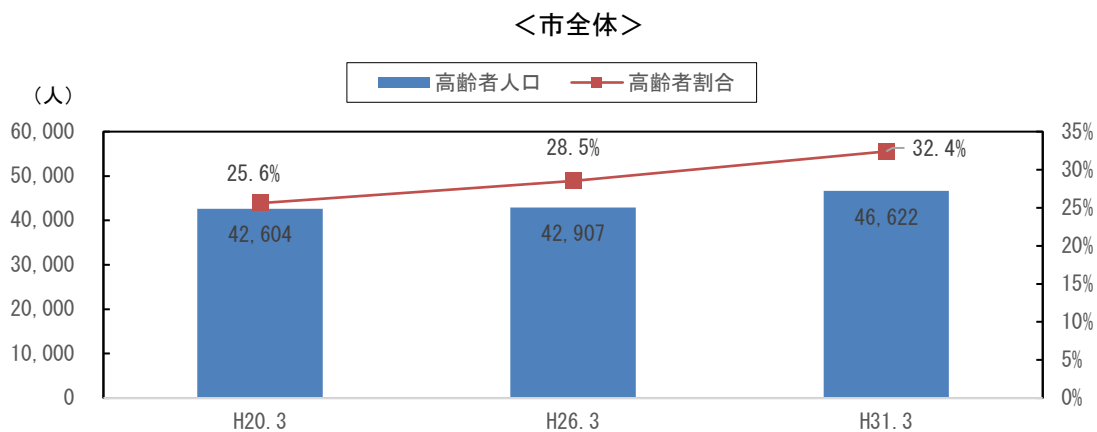


図 石巻市全体の世帯数とそれに占める中心市街地世帯数の割合

② 年齢別人口

- 中心市街地の高齢者数（65歳以上）は、平成31年3月末日時点で824人、その割合は28.7%となり平成26年3月末日と比較して増加している。全体の高齢者割合（平成31年3月末日時点32.4%）より低い水準である。



資料：「住民基本台帳（各年度3月末日現在）」

図 石巻市全体と中心市街地における高齢者人口及び高齢者割合の推移

③商業

ア) 商店街振興組合等

- 中心市街地にはかつて8箇所の商店街組織が形成されていたが、店舗の減少に伴う人手不足等により解散が相次ぎ、現在では法人格を有しているのは立町大通り商店街振興組合のみである。それぞれの商店街では、商店街が主体となった定期的なイベントは少ないものの、まちづくり会社による呼びかけによる売り出しや、NPO 団体等が主催するイベントに有志の店舗が参加するなどして年に数回程度開催している。

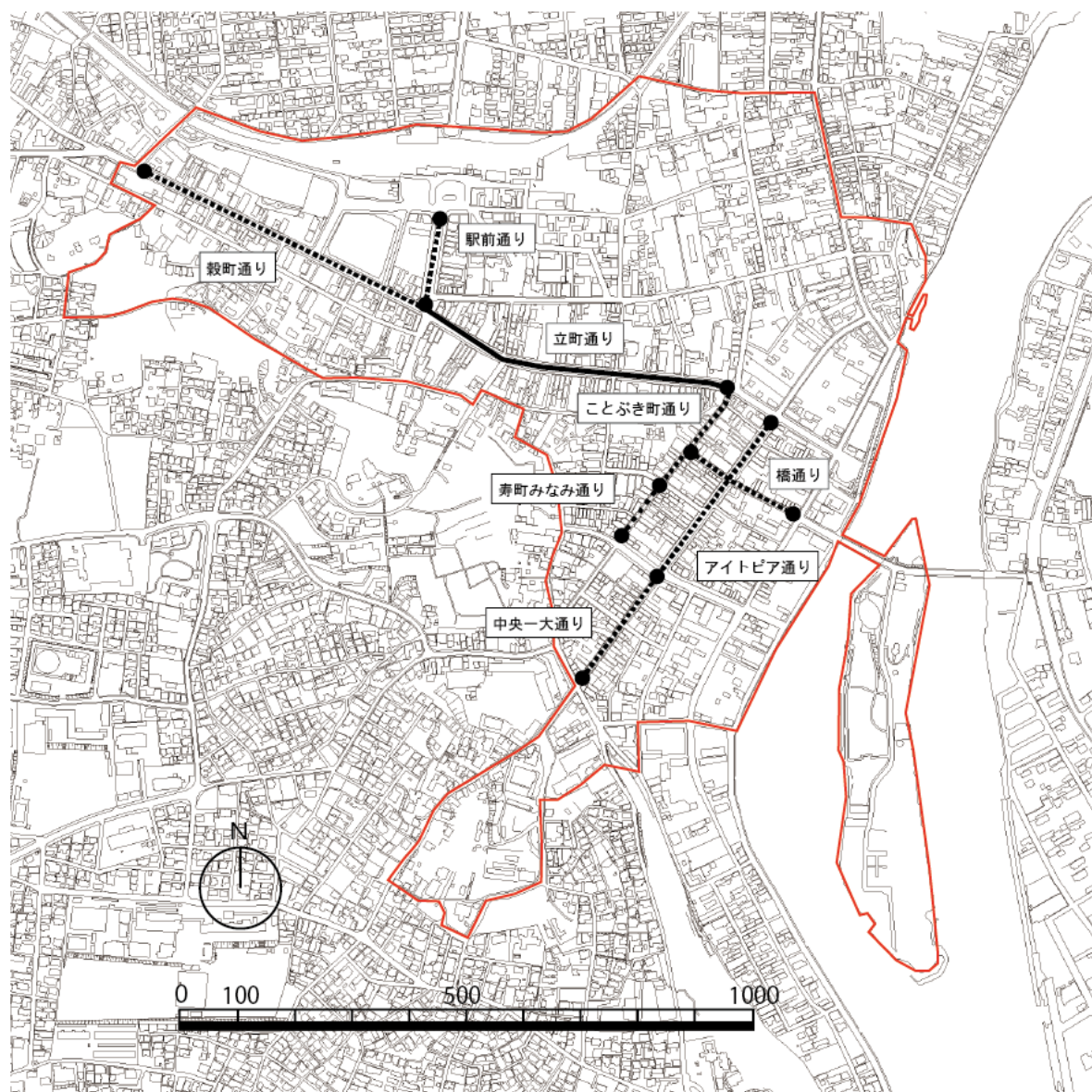
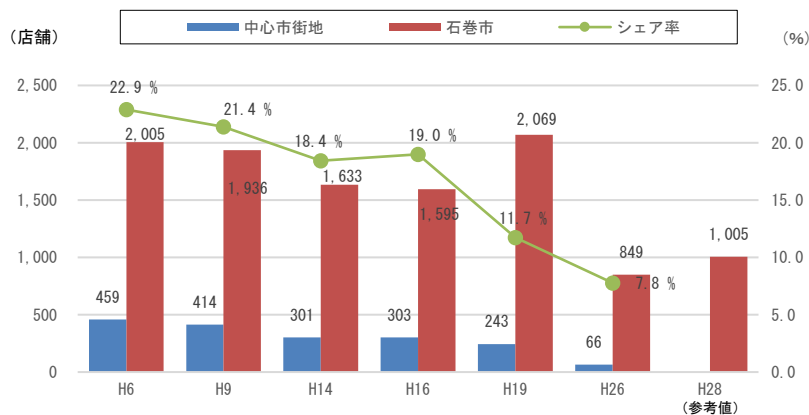


図 中心市街地内の商店街の分布図

イ) 小売店舗数

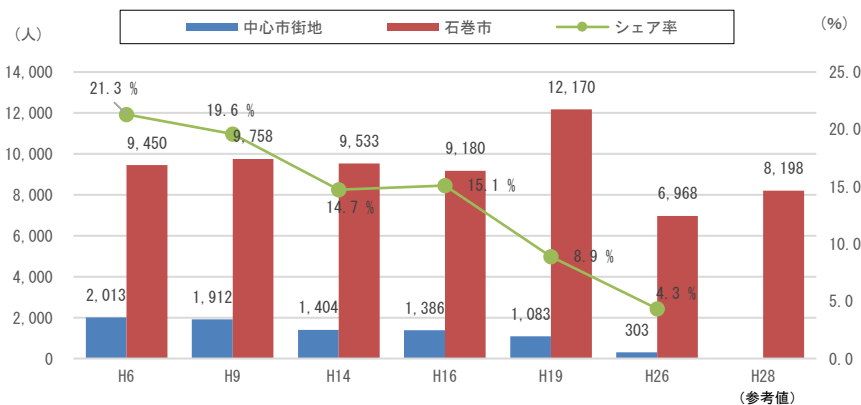
- 商業統計調査による平成 26 年の中心市街地の店舗数は 66 店で、東日本大震災前の平成 19 年から 73.8%減少した。
- 石巻市全体においても、小売店舗数は平成 19 年の 2,069 店から 849 店と 59.0%減少した。
- 平成 26 年の市全体の小売店舗数に占める中心市街地の割合は 7.8%で、平成 19 年と比べて 3.9%減少するなど、東日本大震災による被害を受けたことにより、大幅に減少している。



資料：「商業統計調査」「平成 28 年経済センサス」(経済産業省)
 図 石巻市全体と中心市街地の小売店舗数の推移

ウ) 小売業従業員数

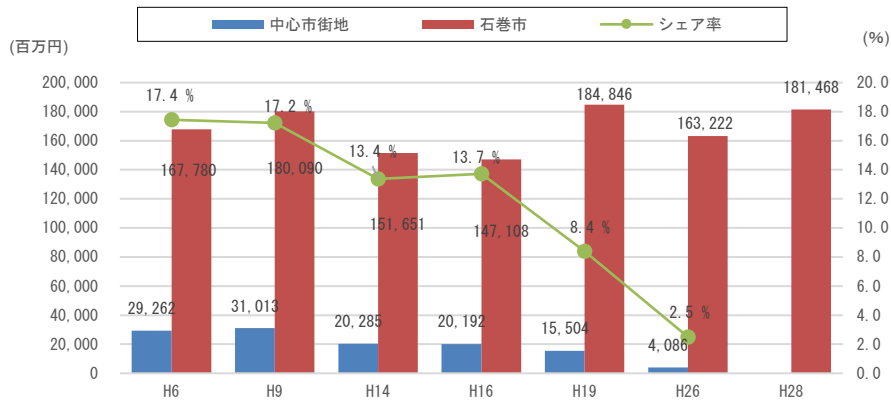
- 商業統計調査による平成 19 年から 26 年にかけての中心市街地の小売業従事者は、1,083 人から 303 人と約 72.0%の減少となっている。
- 石巻市全体の小売業従業者数についても、平成 19 年までは横ばいで推移していたものの、東日本大震災後は平成 19 年の 12,170 人から 6,968 人と 42.7%減少した。



資料：「商業統計調査」「平成 28 年経済センサス」(経済産業省)
 図 石巻市全体と中心市街地の小売店従業員数の推移

エ) 小売業年間商品販売額

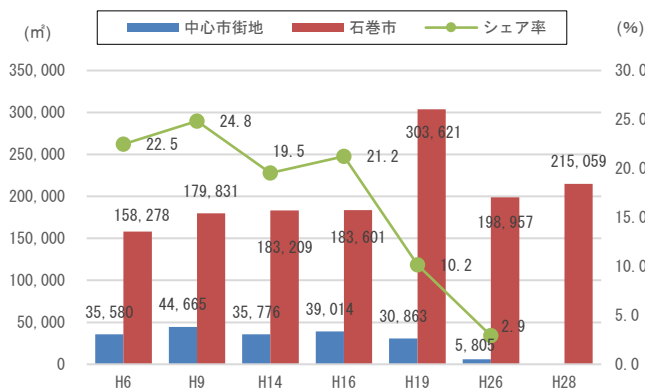
- 商業統計調査による平成 19 年から平成 26 年にかけての中心市街地の小売業年間商品販売額は、15,504 百万円から 4,086 百万円と 73.6%の減少となっている。
- 石巻市全体の小売業年間商品販売額に占める中心市街地の割合は、平成 19 年の 8.4%から 2.5%へと大幅に減少している。
- 一方で、石巻市全体の小売業商品年間販売額は、平成 19 年から平成 26 年にかけて 184,846 百万円から 163,222 百万円と 11.7%の減少となっている。



資料：「商業統計調査」「平成 28 年経済センサス」（経済産業省）
 図 石巻市全体と中心市街地の小売店従業員数の推移

オ) 小売業売場面積

- 中心市街地における平成 26 年の小売業売場面積は 5,805 m²で、市全体の小売業売場面積に占める割合は 2.9%となっている。
- 小売業売場面積は、市全体でみると平成 6 年から平成 26 年にかけて 25.7%増えているが、それに対し中心市街地では 35,580 m²から 5,805 m²と 83.7%の減少となっている。

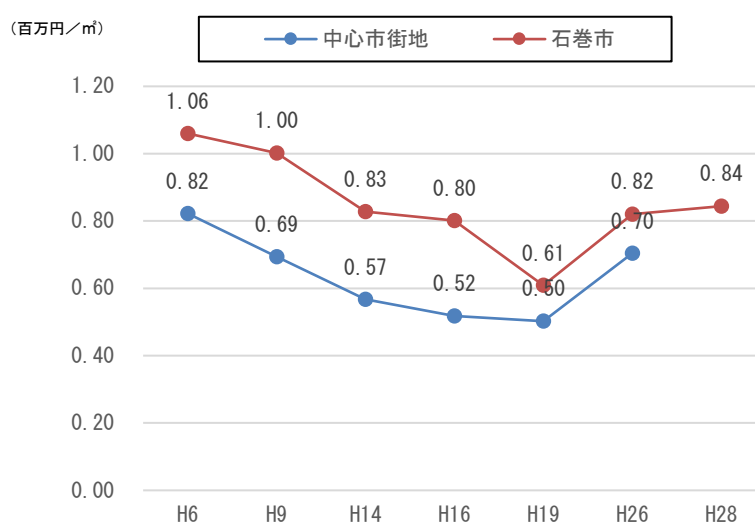


資料：「商業統計調査」「平成 28 年経済センサス」（経済産業省）
 図 石巻市全体と中心市街地の小売業売場面積の推移

- 小売店舗数、小売業従業員数、小売業年間商品販売額、小売業売場面積について、石巻市全体、中心市街地及び石巻市全体に占める中心市街地の割合のいずれも減少基調にある。これは、消費の抑制基調の中にあって、平成4年の旧大店法の規制緩和を背景に、平成5年から相次いで大規模小売店舗が郊外に立地されたことや経済的要因を理由とした中心市街地の大規模小売店舗の閉鎖・撤退が相次いだことによると思われる。
- 震災後も、蛇田地区では居住地として新市街地の整備が促進され、その一画に商業用地が確保され、中心市街地外での店舗再開が増えることが見込まれる。

カ) 販売効率

- 平成6年以降の小売業売場面積当たりの小売業年間商品販売額（販売効率）を見ると、一貫して中心市街地は市全体の値を下回っている。平成26年の調査結果をもとに算出した値は、市全体では0.82百万円/㎡で、中心市街地が0.70百万円/㎡となっている。
- その一方において、無店舗販売やIT化の進展、店舗の新旧程度等、統計数字には多岐要因が内含されていることから、販売効率自体が、小売業者の経済状態を如実に反映したものとはなっていないことも事実と思われる。



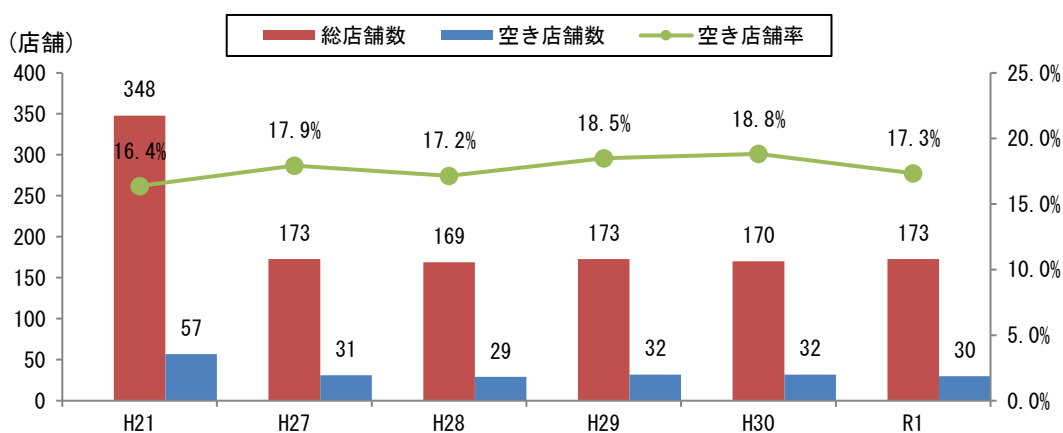
資料：「商業統計調査」「平成28年経済センサス」（経済産業省）
 図 石巻市全体と中心市街地の販売効率の推移

キ) 空き店舗

- 中心市街地内の 8 商店街の空き店舗数を見ると、令和元年現在 30 店あり、総店舗数 173 店舗に占める割合は 17.3%である。震災前の平成 21 年を見てみると、総店舗数が 348 店舗で空き店舗が 57 店舗と、空き店舗の数が減少している一方で、総店舗数も大きく減少している。
- 商店街には空き店舗のほか、震災後取り壊し空き地のままとなっている敷地が多く存在している。

表 中心市街地内の各商店街の空き店舗数の推移（単位：店）

調査年	商店会名	穀町通り	駅前大通り	立町大通り	アイトピア通り	ことぶき町通り	橋通り	寿町みなみ通り	中央一大通り	合計
H21 年	総店舗数	42	30	89	60	40	20	26	41	348
	空き店舗数	9	6	18	17	4	3	0	0	57
	空き店舗率	21.4%	20.0%	20.2%	28.3%	10.0%	15.0%	0.0%	0.0%	16.4%
H27 年	総店舗数	18	18	47	46	14	6	13	11	173
	空き店舗数	2	2	8	14	2	2	1	0	31
	空き店舗率	11.1%	11.1%	17.0%	30.4%	14.3%	33.3%	7.7%	0.0%	17.9%
H28 年	総店舗数	18	18	45	42	15	6	13	12	169
	空き店舗数	3	0	6	14	3	2	1	0	29
	空き店舗率	16.7%	0.0%	13.3%	33.3%	20.0%	33.3%	7.7%	0.0%	17.2%
H29 年	総店舗数	19	18	48	41	16	6	13	12	173
	空き店舗数	3	2	7	11	6	2	1	0	32
	空き店舗率	15.8%	11.1%	14.6%	26.8%	37.5%	33.3%	7.7%	0.0%	18.5%
H30 年	総店舗数	18	18	49	38	15	6	14	12	170
	空き店舗数	2	2	8	11	6	2	1	0	32
	空き店舗率	11.1%	11.1%	16.3%	28.9%	40.0%	33.3%	7.1%	0.0%	18.8%
R1 年	総店舗数	18	21	48	39	15	6	14	12	173
	空き店舗数	3	1	10	9	4	2	1	0	30
	空き店舗率	16.7%	4.8%	20.8%	23.1%	26.7%	33.3%	7.1%	0.0%	17.3%



※資料：H21 は宮城県・石巻商工会議所調べ、H27～R1 は東北学院大学建築デザイン研究室調べ

ク) 大規模小売店舗

- 昭和 50 年代には、店舗面積 1,000 m²程度の大規模小売店舗が郊外の幹線道路沿いを中心に立地してきた。その後も郊外の住宅地や幹線道路沿いに立地が進み、平成 17 年以降には蛇田地区の土地区画整理事業に伴い、相次いで店舗面積 10,000 m²以上の大規模小売店舗が進出している。中でも平成 19 年 3 月にオープンしたイオン石巻ショッピングセンター（現在イオンモール石巻）は県下 3 番目の規模となっている。
- 中心市街地では、平成 20 年 4 月にさくら野百貨店が閉店し、その建物を活用して市役所が移転し、その 1 階部分には食品スーパーが出店していたが、平成 30 年 5 月で営業を終了し、令和元年 9 月時点で空き店舗となっている。
- 店舗面積 1,000 m²以上の大規模小売店舗は中心市街地内に 1 店のみとなっている。



図 大規模小売店舗の位置図

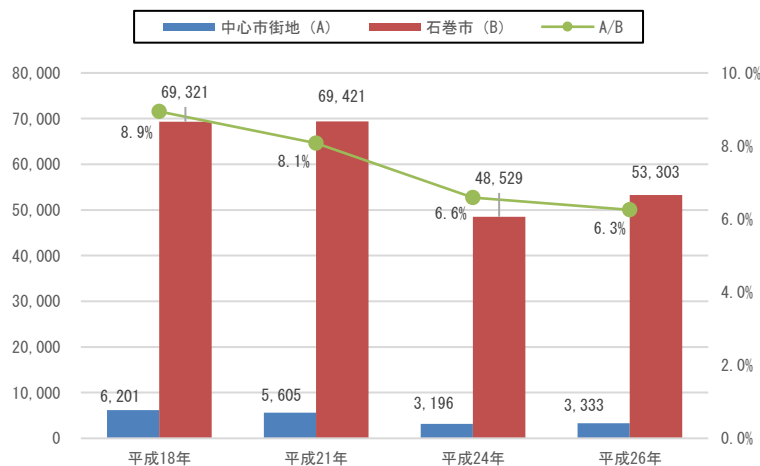
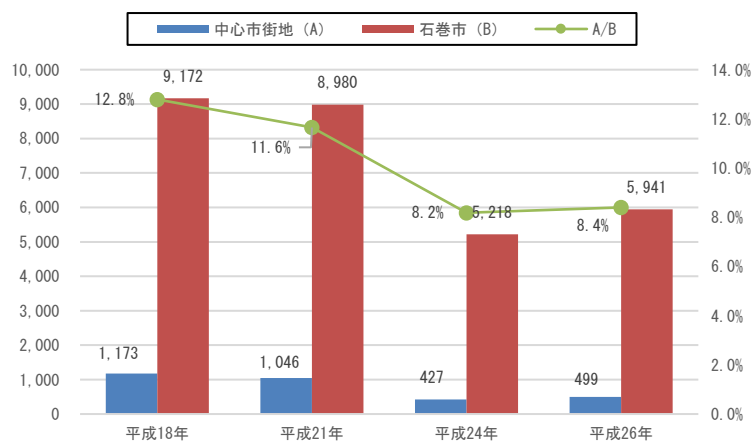
表 市内の主要大規模小売店舗等の出店状況

開店日	店舗名称	店舗面積 (㎡)	用途地域
1954年3月	株式会社川屋	1,450	商業
1971年9月	木村家具センター	1,101	近隣商業
1976年8月	ヨークベニマル大街道店	3,561	第2種住居
1983年6月	ビバホーム石巻店	4,792	第1種低住専
1986年11月	株式会社家具のイトウ	1,990	近隣商業
1992年10月	ホームマック石巻店	3,677	第2種住居
1993年5月	ヨークベニマル湊鹿妻店	4,078	第2種住居
1993年6月	ホームマック石巻東店	2,987	第2種住居
2013年5月	ザ・ビッグ石巻鹿又店	2,958	-
1996年6月	イトーヨーカドー石巻あけぼの店	11,702	第2種住居
1996年11月	ツルハドラッグ石巻中里店	1,199	近隣商業
1996年11月	ユノメ家具Z石巻店	4,038	準工業
1996年11月	みやぎ生活協同組合石巻大橋店	2,315	第2種住居
1997年9月	ウジエスーパー山下店	1,290	第2種住居
1998年8月	ヤマト屋書店 TSUTAYA 中里店	1,428	近隣商業
1998年11月	金港堂石巻店	1,421	準住居
2006年4月	河北アゼリアプラザ(ウジエスーパー飯野川店)	7,512	-
2000年7月	おざしビル(ヨークベニマル中浦店)	2,731	-
2005年7月	イオンスーパーセンター石巻東店	16,917	準工業
2006年4月	石巻蛇田ショッピングセンター	12,000	近隣商業
2007年3月	イオンモール石巻	33,686	準工業
2007年7月	ケーズデンキ石巻本店	4,473	準住居
2007年11月	石巻蛇田中央ショッピングセンター	6,820	近隣商業
2008年4月	みやぎ生活協同組合蛇田店	3,728	第2種住居
2008年10月	石巻ファッションモール	2,567	第2種住居
2010年12月	ニトリ石巻店	5,305	準住居
2015年5月	ツルハドラッグ石巻河北店	1,381	-
2016年8月	あいのや新蛇田店	1,717	第1種住居
2018年3月	フジヤ あゆみ野本店	1,296	第1種住居
2019年2月	みやぎ生活協同組合石巻渡波店、薬王堂石巻渡波店	1,983	第2種住居

資料：石巻市商工課

ケ) 事業所数、従業員数

- 中心市街地の事業所数は、平成 18 年の 1,173 事業所から震災後の平成 24 年には 427 事業所まで 6 割以上減少したが、平成 26 年には 499 事業所とやや増加した。石巻市全体についても中心市街地と同様の傾向がみられる。
- 中心市街地の従業員数については、震災前後で半数程度落ち込み平成 24 年に 3,196 人となったが、平成 26 年には 3,333 人とやや増加した。石巻市全体においても震災後の平成 24 年には 48,529 人と大幅に減少したが、平成 26 年にやや増加し 53,303 人となっている。



※中心市街地の値は、日和が丘一丁目、住吉町一丁目全て計上
 資料：「事業所・企業統計調査 (H18)」「経済センサス (H21、24、26)」(経済産業省)

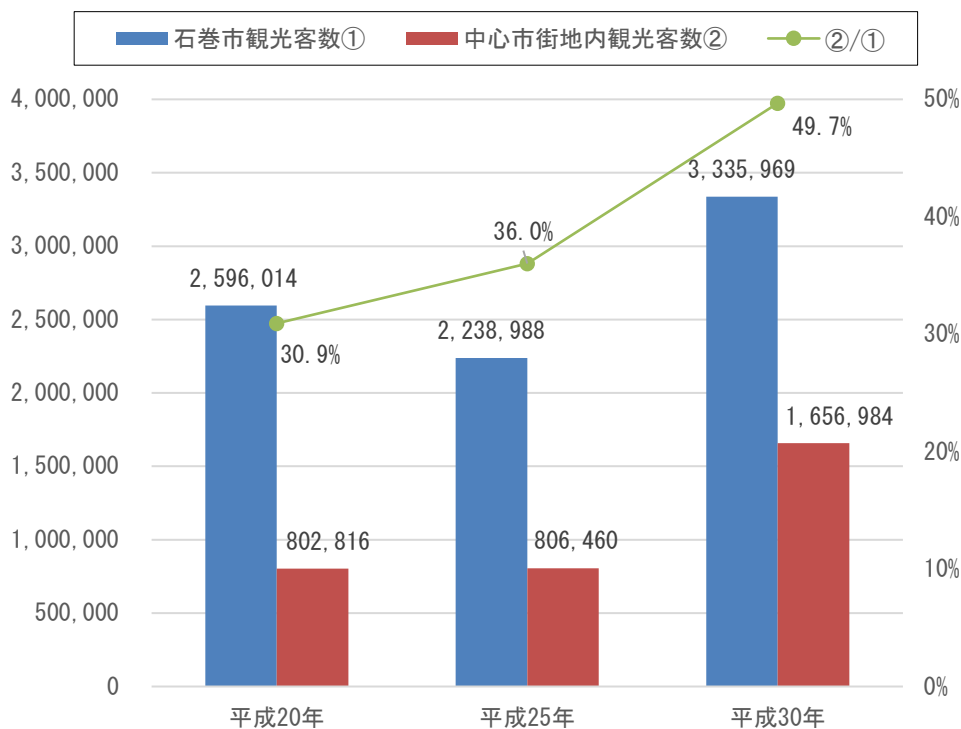
図 石巻市全体と中心市街地の事業所数、従業員数の推移

【商業機能衰退に係る課題の整理】

- 石巻市全体に占める中心市街地における小売店舗数、従業員数、年間販売額、売場面積の割合は、震災前より総じて減少傾向にあった。商店街がもともと抱えている後継者不足等の問題、三陸縦貫自動車道石巻河南 I C 周辺や幹線道路沿いなど郊外での大型店の相次ぐ出店、消費活動の変化など中心市街地の商業活力の停滞の要因は多岐に渡ると考えられる。
- 平成 23 年に発生した東日本大震災により中心市街地はほぼ全てが浸水し、多くの店舗が廃業・移転を余儀なくされた。一方で、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業により内陸の郊外部に新たな住宅地や商業地が形成された。これらにより震災前から続く中心市街地の商業衰退の傾向は一層激しくなった。
- それらは、震災による特別な要因によるというよりも、むしろ震災前より商店街が抱えていた問題や、都市・商業機能の郊外化による空洞化が、震災により一層顕在化した結果であり、中心市街地の商業機能の活性化に向けた課題としては、これまでと同様、相対的な地盤沈下に対して官民が一体となって商業機能の強化を図り、周辺商業エリアとは異なる商店街としての魅力を高めることが求められる。

④ 観光

- 平成 30 年の石巻市観光客数は約 333.6 万人と、東日本大震災により一時落ち込んだもののその後増加傾向にあり、震災前の平成 22 年の 259.0 万人から 28.8%増加している。
- このうち、中心市街地における施設別・行催事別観光客数の合計は 165.7 万人と 49.7%と約半数を占めている。
- このうち、平成 29 年にオープンしたいしのまき元気いちばには平成 30 年で 105.1 万人が訪れており、中心市街地において施設を訪れる観光客数の 72.6%と大半を占める。この他にも、かわまち交流センターや旧観慶丸商店など新たな観光施設が整備されたことにより中心市街地を訪れる人の数は増加している。
- 一方で、日和山や観光物産情報センターなど震災前より観光拠点として機能してきた名所・施設では来訪者数が減少している。
- また、行祭事については石巻を代表する夏の祭りの一つ石巻川開き祭りが行われ、東日本大震災で犠牲になられた方々の「供養祭」、花火が絶え間なく打ち上がる「川開き花火大会」、勇壮な「孫兵衛船競漕」のほか、市内中心部のあちこちで様々な催し物が行われている。

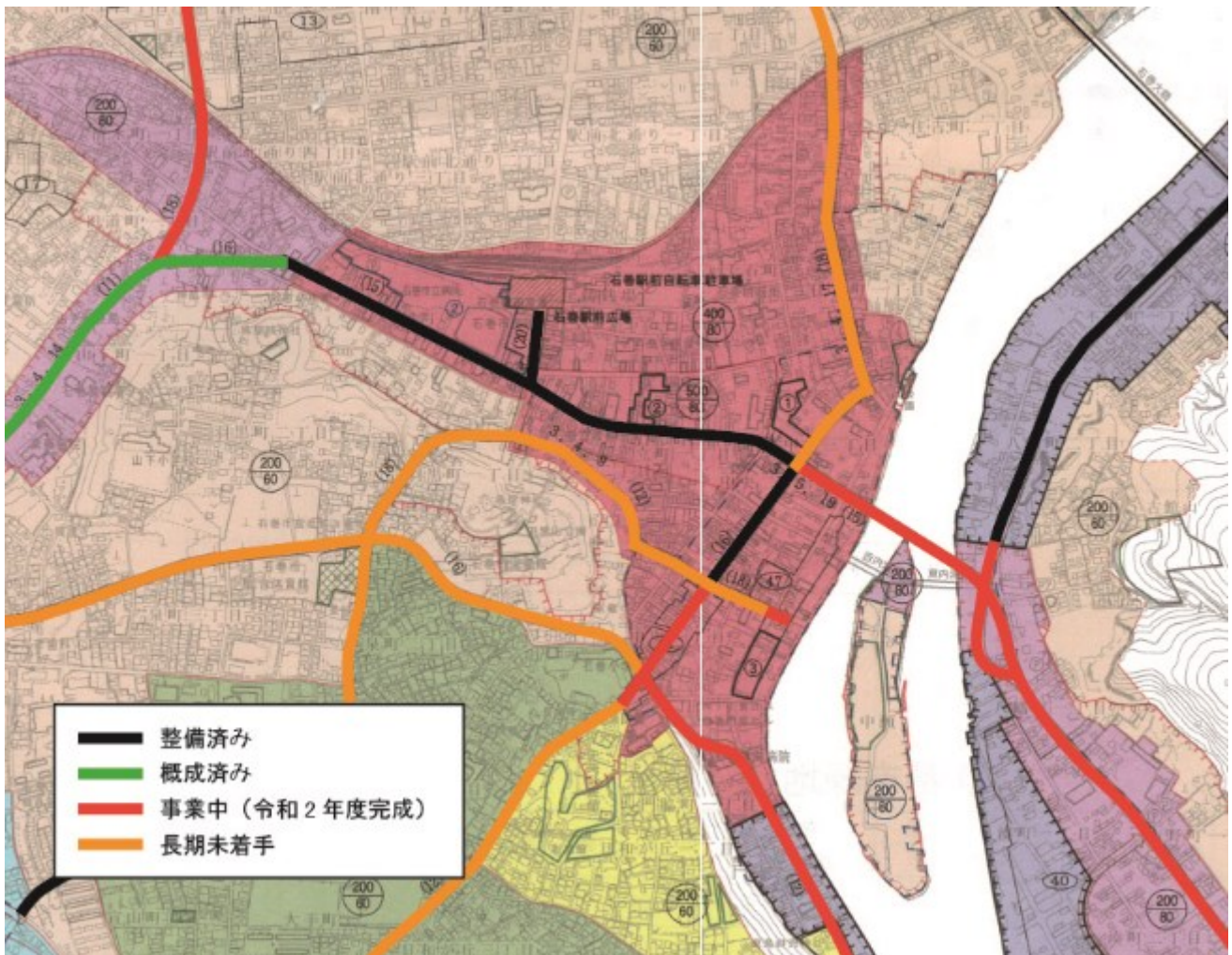


資料：石巻市観光課

図 石巻市全体と中心市街地への入込客数の推移

⑤ 都市計画

- 骨格となる都市計画道路のうち、東西を結ぶ道路については、復興事業により新たに整備される新内海橋の完成に伴い令和 2 年度に開通する予定である。また、中心市街地と門脇・南浜地区をつなぐ道路については、土地区画整理事業等により主要地方道石巻港線として振り替え整備が進められており、令和 2 年度に完成予定となっている。



概成済み：計画幅員に係る用地の全ては確保していないものの、計画幅員の 2/3 以上を整備し一般供用していること。

図 都市計画の動向

⑦ 交通

ア) 歩行者・自転車通行量

- 平成9年度以降調査を実施している12地点の通行量の合計は、平日、休日ともに、平成15年度から平成25年度にかけて減少しており、平成25年度の通行量は、平成9年度の1/3以下まで減少した。
- 平成25年以降は横ばいとなっていたが、平成30年には平日・休日ともに増加した。
- 地点ごとに見てみると、平成20年度以降平日の通行量が減少傾向にある地区が多いのに対して、休日の通行量は平成20年以降増加に転じる地区が見られる。特に、平成30年は休日の多くの地点で大幅に増加している。これは、アプリゲームによる来訪者の増加などが予想され、恒常的な増加というよりも一時的な増加であると考えられる。

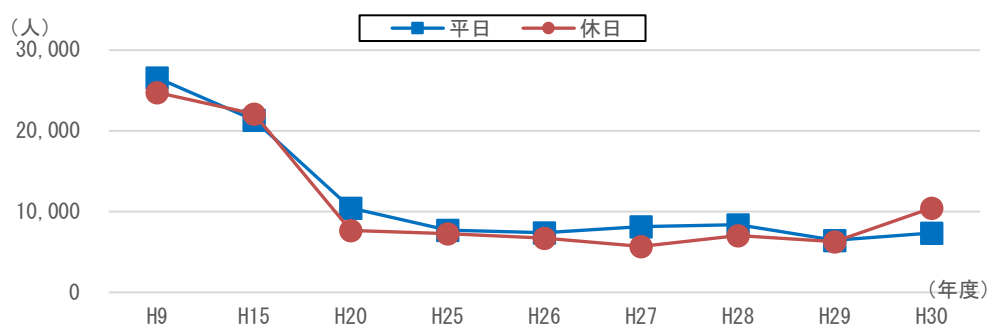
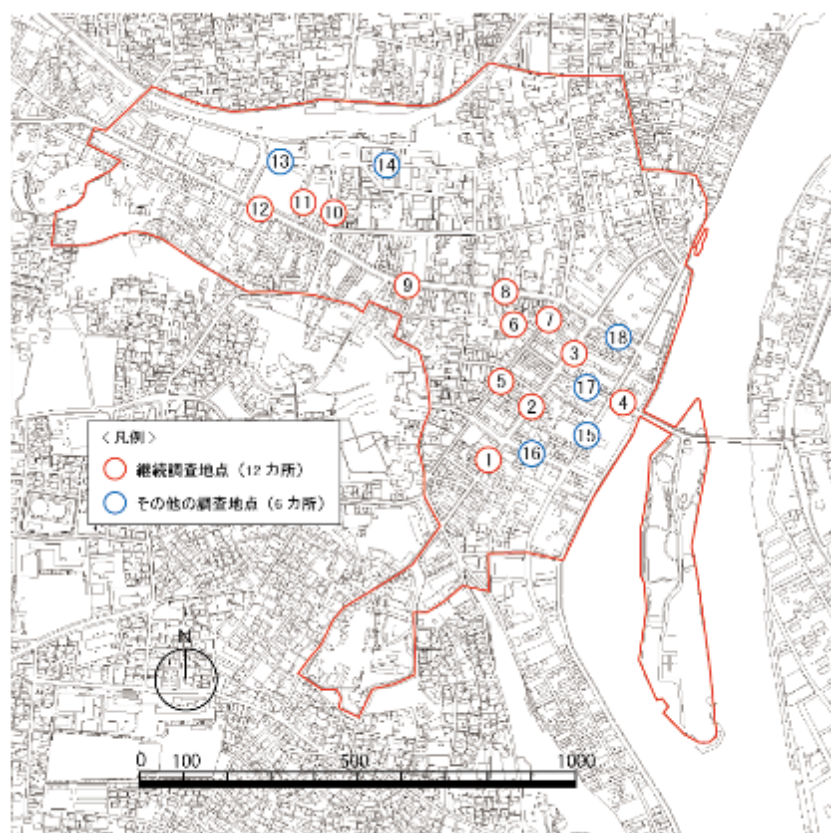


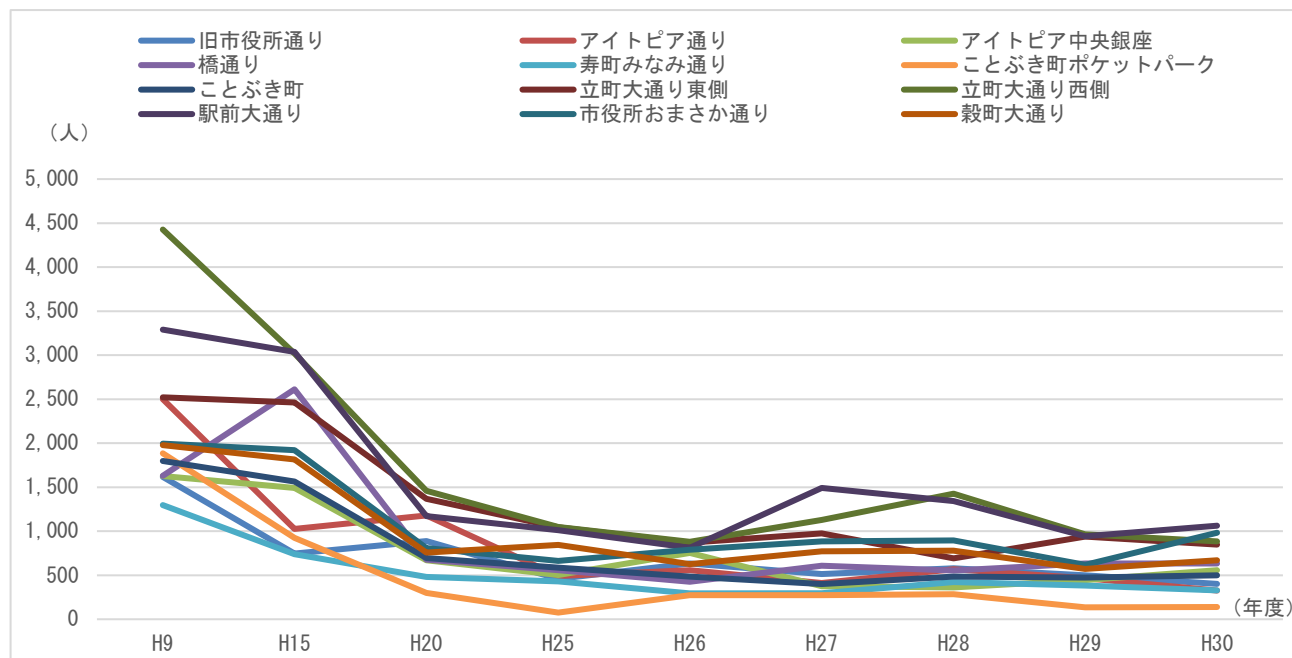
図 12 調査地点合計の歩行者・自転車通行量 (調査時間 9:00~18:00)

表 調査 18 地点の平日、休日の歩行者・自転車通行量の推移（調査時間 9:00～18:00）

【平日】

(人)

地点 No	調査地点	調査年度									H28～H30の平均値	平均値-H28
		H9	H15	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
1	旧市役所通り	1,617	745	890	458	634	512	578	500	402	493	-85
2	アイトピア通り	2,500	1,028	1,180	492	558	412	570	466	326	454	-116
3	アイトピア中央銀座	1,627	1,493	670	504	754	374	362	446	559	456	94
4	橋通り	1,631	2,612	678	558	426	608	552	634	632	606	54
5	寿町みなみ通り	1,297	740	482	430	294	296	422	382	328	377	-45
6	ことぶき町ポケットパーク	1,885	926	298	76	272	272	286	136	138	187	-99
7	ことぶき町	1,798	1,563	694	588	486	400	486	474	498	486	0
8	立町大通り東側	2,521	2,464	1,369	1,044	871	974	692	938	848	826	134
9	立町大通り西側	4,427	3,019	1,459	1,048	880	1,129	1,425	963	885	1,091	-334
10	駅前大通り	3,290	3,036	1,172	1,010	812	1,492	1,343	944	1,064	1,117	-226
11	市役所おまさか通り	1,995	1,920	809	664	789	883	896	618	982	626	-270
12	穀町大通り	1,978	1,817	756	846	627	771	780	572	671	674	-106
13	市役所北側	-	-	556	1,250	760	776	1,524	769	554	949	-575
14	JR 石巻駅東側	-	-	-	748	860	790	1,740	604	426	923	-817
15	旧まちなか復興マルシェ前	-	-	-	1,282	280	808	334	387	1,968	896	562
16	石巻ガス前	-	-	-	-	-	310	244	340	326	303	59
17	橋通り COMMON 前	-	-	-	-	-	510	582	429	492	501	-81
18	旧親慶丸前	-	-	-	-	-	234	118	196	196	170	52
継続調査地点合計（1～12）		26,566	21,363	10,457	7,718	7,403	8,123	8,392	7,073	7,333		
平成 20 年を 1 とした場合の伸び率		2.54	2.04	1.00	0.74	0.71	0.78	0.80	0.68	0.70		



【休日】

(人)

地点 No.	調査地点	調査年度									H28～H30の 平均値	平均値 -H28
		H9	H15	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
1	旧市役所通り	540	552	556	350	234	304	164	338	294	265	101
2	アイトピア大町	1,876	1,128	546	496	632	332	414	336	586	445	31
3	アイトピア中央銀座	1,357	1,479	594	438	686	378	466	576	974	672	206
4	橋通り	1,634	3,508	736	592	606	408	960	944	1,928	1,277	317
5	寿町みなみ通り	1,311	695	420	440	338	460	408	452	584	481	73
6	ことぶき町ポケットパーク	2,065	1,442	172	146	162	208	156	228	398	261	105
7	ことぶき町	1,442	1,182	544	602	590	330	416	460	796	557	141
8	立町大通り東側	2,070	1,896	924	1,118	851	644	900	835	1,236	990	90
9	立町大通り西側	3,868	2,170	928	1,259	846	691	984	840	1,286	1,037	53
10	駅前大通り	3,857	3,576	1016	1,044	976	1,276	916	840	1,227	994	78
11	市役所おまさか通り	2,836	2,470	684	289	345	292	590	266	526	372	-218
12	穀町大通り	1,895	1,984	552	510	453	367	646	424	622	564	-82
13	市役所北側	-	-	568	1,244	526	448	690	450	484	541	-149
14	JR石巻駅東側	-	-	430	430	606	384	694	616	504	605	-89
15	旧まちなか復興マルシェ前	-	-	890	890	224	432	370	1,098	2,631	1,366	996
16	石巻ガス前	-	-	-	-	-	200	192	218	448	286	94
17	橋通りCOMMON前	-	-	-	-	-	776	749	596	1,208	851	102
18	旧観慶丸前	-	-	-	-	-	186	194	176	354	241	47
継続調査地点合計(地点1～12)		24,751	22,082	7,672	7,284	6,719	5,690	7,020	6,273	10,457		
平成20年を1とした場合の伸び率		3.23	2.88	1.00	0.95	0.88	0.74	0.92	0.82	1.36		

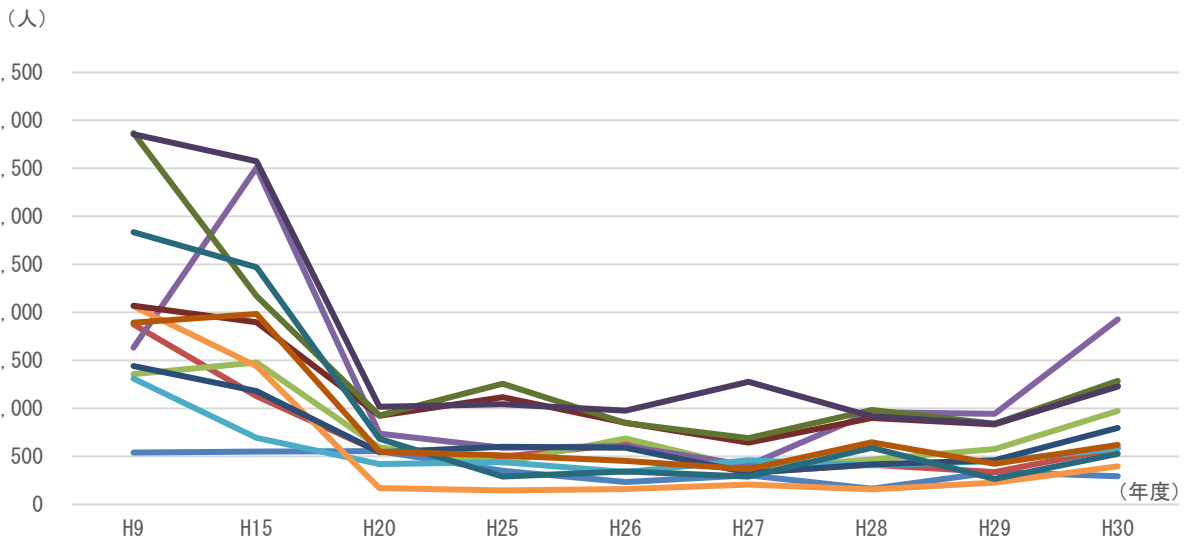
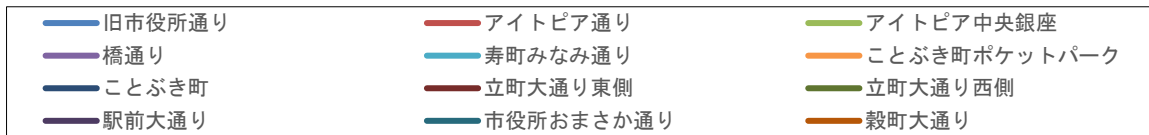


表 各調査地点の分析結果

No.	地点	分析結果
1	旧市役所通り (中央一大通り)	平日、休日ともに平成 20 年度比でおよそ半数まで減少している。
2	アイトピア大町	平日における平成 20 年度比の減少率が 7 割以上になっている。調査地点の中で最も減少が著しい。休日についても平日ほどではないものの減少傾向にあるが、増加している年度もみられる。
3	アイトピア中央銀座	平日における減少は平成 29 年度以降回復しつつある。休日についても平成 20 年度の値に戻りつつある。
4	橋通り	平日の通行量は、平成 26 年度に平成 20 年度比で 4 割近く減少したものの回復し、以降は横ばいで推移している。休日は、平成 27 年度まで減少が続いたが、橋通り COMMON や復興まちづくり情報交流館、いしのまき元気いちばのオープン等により大きく増加している。
5	寿町みなみ通り	平日の通行量は、平成 20 年度比で 3~4 割減少している。一方で、休日の通行量は平成 20 年度以降横ばいの傾向が続いている。
6	ことぶき町ポケットパーク	平日の通行量は、平成 20 年度比で半分近くまで減少している。一方で、休日の通行量は平成 20 年度以降横ばいの傾向が続いている。
7	ことぶき町	平日の通行量は、平成 20 年度比で 3~4 割減少している。休日についても平日ほどではないものの減少傾向にあるが、増加している年度もみられる。
8	立町大通り東側	平日の通行量については、減少傾向が続いている。休日についても平日ほどではないものの減少傾向にあるが、増加している年度もみられる。
9	立町大通り西側	
10	駅前大通り	平日、休日ともに年度によって差があるものの、横ばい傾向がみられる。
11	市役所(旧さくら野)おまさか通り	平日の通行量はやや増加傾向にある。一方で、休日の通行量については減少傾向にあるものの、平成 28 年度以降はやや回復している。
12	穀町大通り	平日、休日ともに年度によって差があるものの、横ばい傾向がみられる。

- 平成 28 年度から平成 30 年度までの通行量の変化についてみると、平日では川沿いエリアを中心に増加しているものの、駅前エリアや立町・中央エリアの一部では減少している。休日では、川沿いエリア、立町・中央エリアではいずれの地点も増加しているものの、駅前エリアでは減少している。
- 川沿いエリアに、集客施設ができたほか、立体駐車場などアクセス拠点も整備されたことから多くの人々が訪れているものの、石巻マンガロードを通るなどして中心市街地を十分に回遊するに至っていない状況がうかがえる。

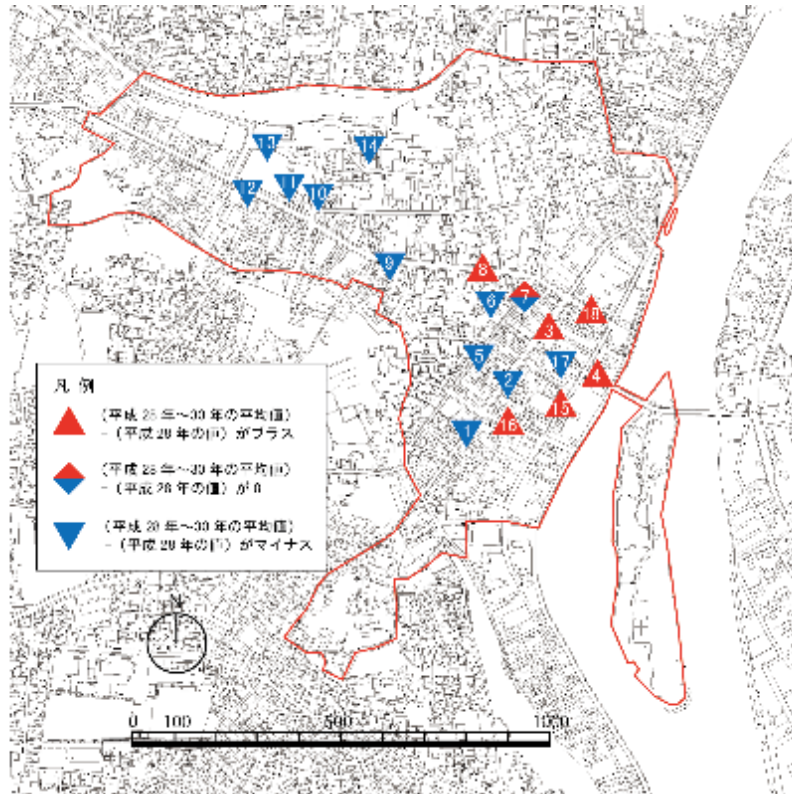


図 過去3年間における平日の歩行者・自転車通行量の変化

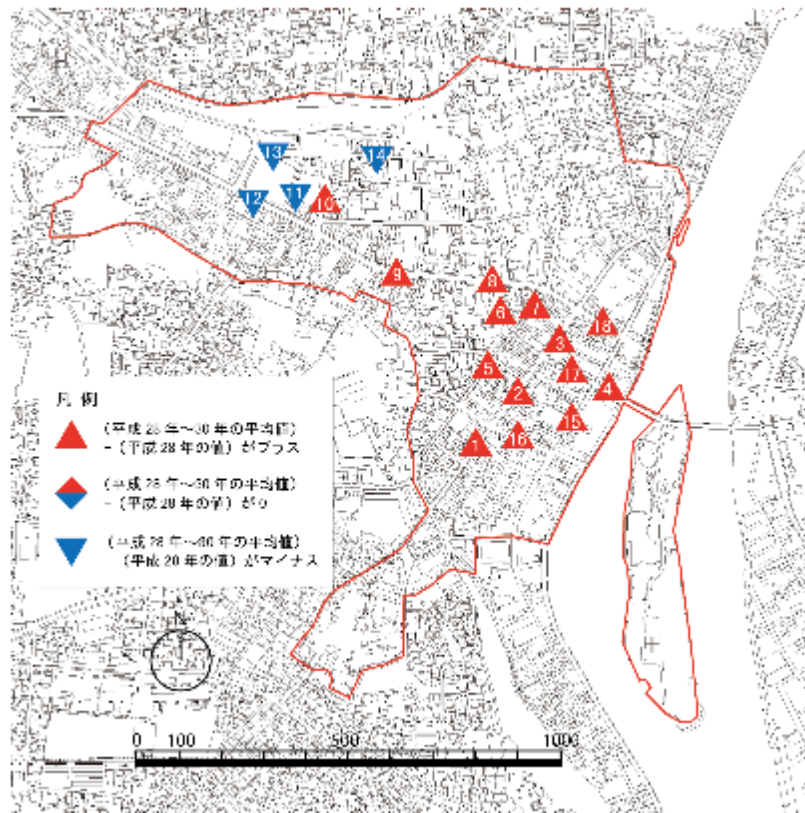
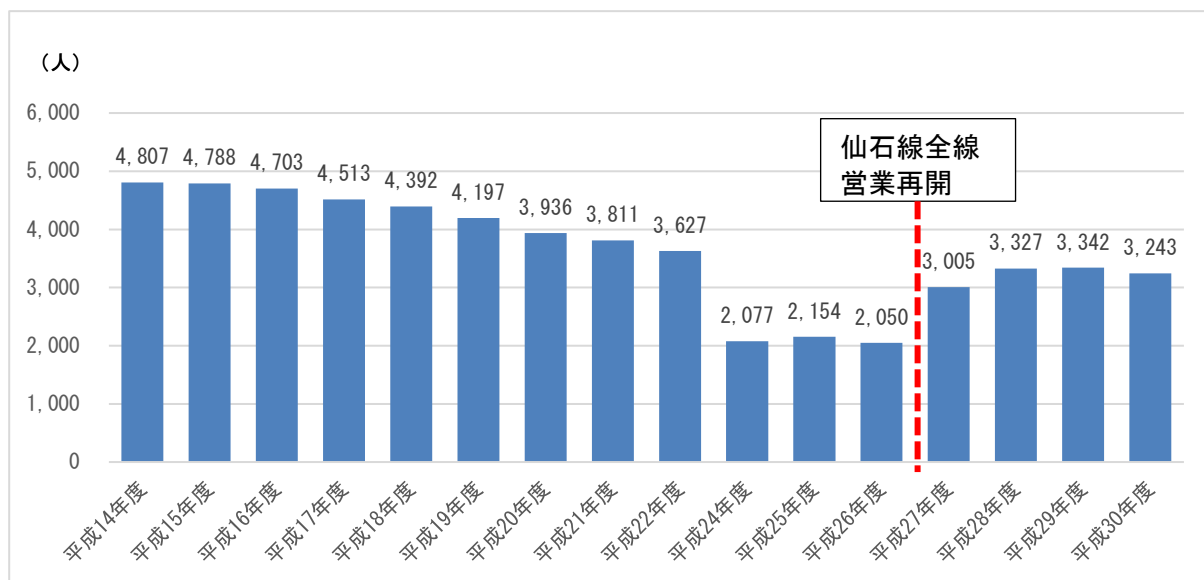


図 過去3年間における休日の歩行者・自転車通行量の変化

イ) 鉄道

- 中心市街地内にある J R 石巻駅には、石巻駅とあおば通り駅を結ぶ J R 仙石線、女川駅～石巻駅～仙台駅を結ぶ J R 仙石東北ライン、女川駅～石巻駅～小牛田駅間を結ぶ J R 石巻線の 3 路線が通っている。J R 仙石東北ラインは上下線合わせて 28 本、仙石線は上下線合わせて 37 本、また J R 石巻線は上下線合わせて 23 本運行されている。
- 石巻駅の 1 日平均乗車客数は、平成 14 年度以降一貫して減少基調にあり、東日本大震災前年の平成 22 年度は 3,627 人となっている。これは、モータリゼーションの進展、さらには、少子化や事業所数の減少により通学・通勤者が減少したことが要因と思われる。平成 24 年度は一部区間の運転再開によって 2,077 人となった。
- 平成 27 年度に仙石線が全線で開通し乗車客数は増加したものの、震災前水準までには至らず、平成 30 年度は再び減少傾向に転じた。



平成 23 年度は東日本大震災により不通のためデータなし

資料： J R 東日本旅客鉄道株式会社

図 J R 石巻駅の 1 日平均乗車客数の推移

ウ) バス

- JR石巻駅を中心に、株式会社ミヤコーバスが運行主体となる路線バス及び地域住民が運行協議会を組織し運営する住民バス、市民バスが運行されている。
- 震災後、市内仮設住宅を巡回する路線が運行されていたが、仮設住宅の解消に伴い令和元年9月をもって廃止となった。
- いしのまき元気いちば南側に新たに交通広場が整備され、山下・蛇田・渡波方面のバスが石巻駅から川沿いエリアを経由して運行されている。

表 運営主体と路線名一覧

運営主体	路線名	運営主体	地区・路線名
株式会社ミヤコーバス	石巻免許センター線	各地域の運行協議会	荻浜地区住民バス
	河南線		稲井地域乗合タクシー
	中里線		山の手地区乗合タクシー
	河北線		水押・開北・大橋・水明地区乗合タクシー
	石巻専修大学線		河北地区住民バス
	蛇田線		雄勝地区住民バス
	石巻日赤線		河南地区乗合タクシー
	女川線		桃生地区住民バス
	鮎川線		北上地区住民バス
	鹿妻線		
	山下門脇線		
	石巻渡波線		
		石巻市	牡鹿地区市民バス

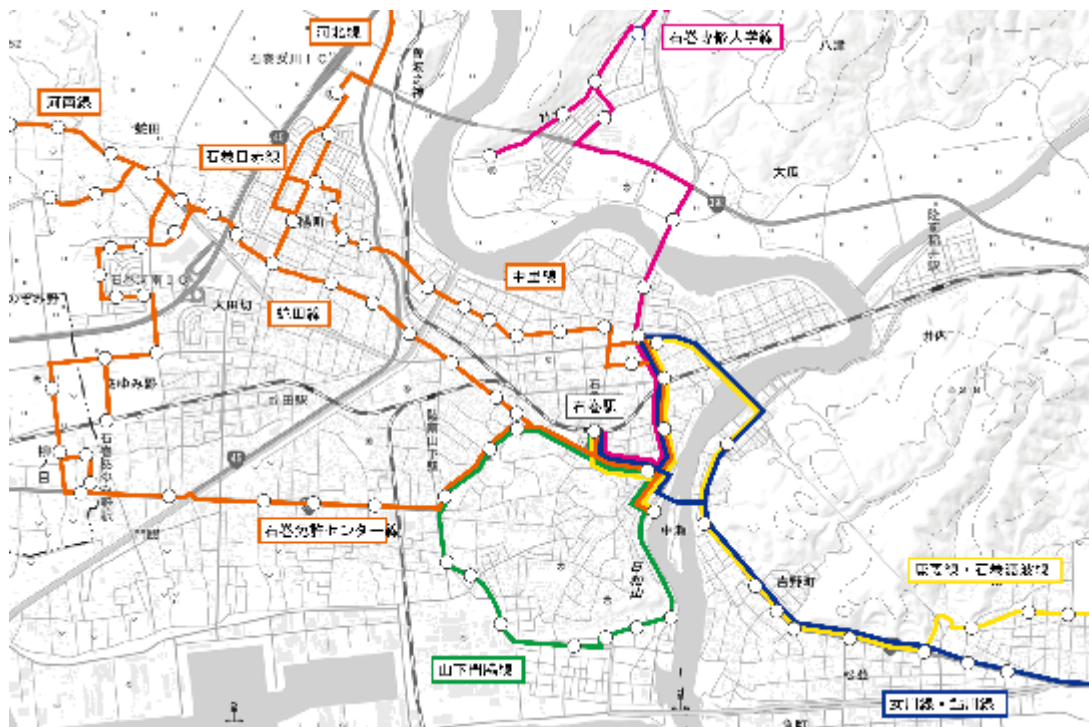
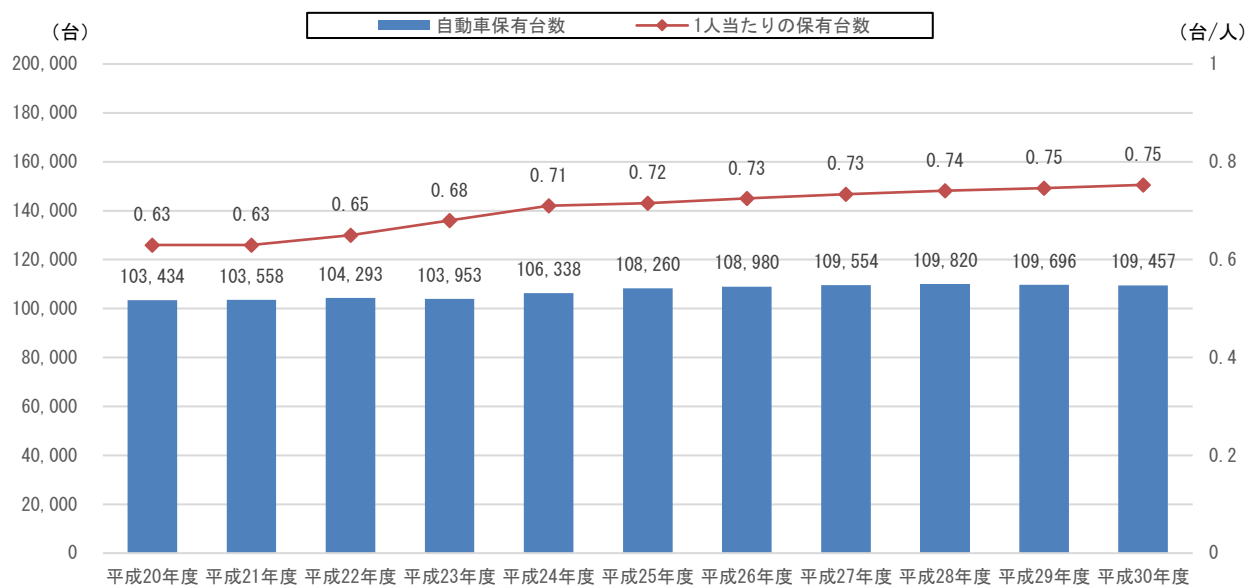


図 路線バス路線図

エ) 自動車・駐車場

- 石巻市全体の自動車保有台数（乗用自家用車と軽自動車乗用の合計）は、平成 28 年度をピークにから減少傾向にあり、平成 30 年度は 109,457 台で、人口一人当たりになると 0.75 台と 4 人につき 3 台の車を所有する計算になり、自動車は生活に身近で欠かせないものとなっている。
- 中心市街地内には、街づくりまぼろうが発行している共通駐車券が使用できる時間貸し駐車場が 11 箇所あり、商店街の店舗等で買い物客に配布されているほか、店舗が個別に駐車場から購入し配布している駐車券がある。震災以降、生じた空き地に時間貸し駐車場が多く設けられているが、それらのほとんどが共通駐車券を使用できない。



※自動車保有台数（乗用自家用車と軽自動車乗用の合計）

資料：東北運輸局、県HP・住民基本台帳（各年度末現在）

図 自動車保有台数の推移

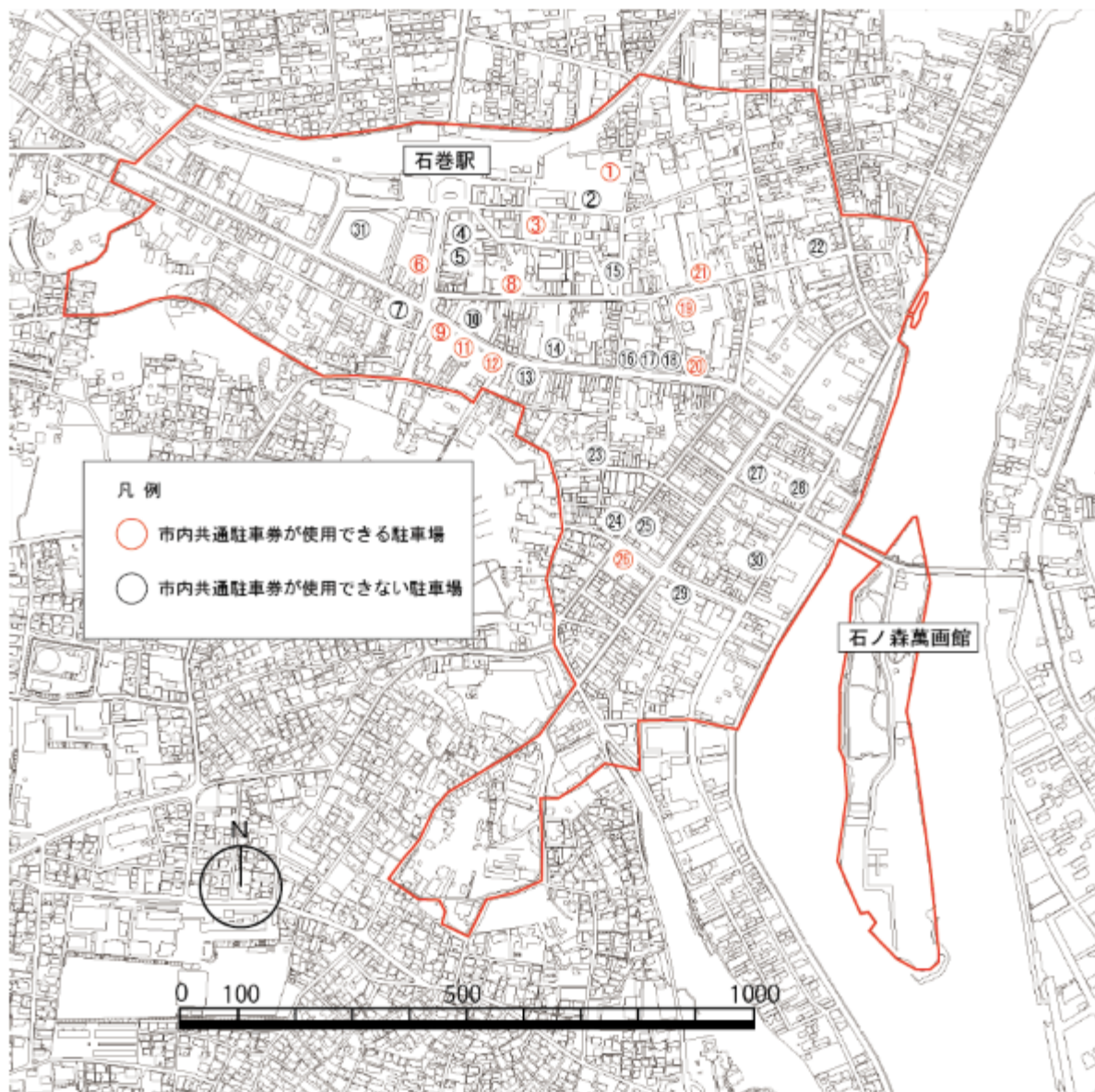


図 中心市街地における時間貸し駐車場位置図

表 時間貸し駐車場における共通駐車券の使用有無

	箇所数	台数
市内共通駐車券が 使用できる時間貸し駐車場	11 箇所	663 台
市内共通駐車券が 使用できない時間貸し駐車場	20 箇所	779 台
合 計	31 箇所	1,442 台

(令和元年 10 月末時点)

⑧ 地価

- 全国的な地価下落傾向に加え郊外への大規模小売店舗立地等の影響により中心市街地の商業地の地価は下落してきた。東日本大震災により急激に落ち込んだ地区もみられたが、周辺の住宅地では横ばいあるいは減少に変わりつつあるものの、商業地については緩やかな上昇が続いている。

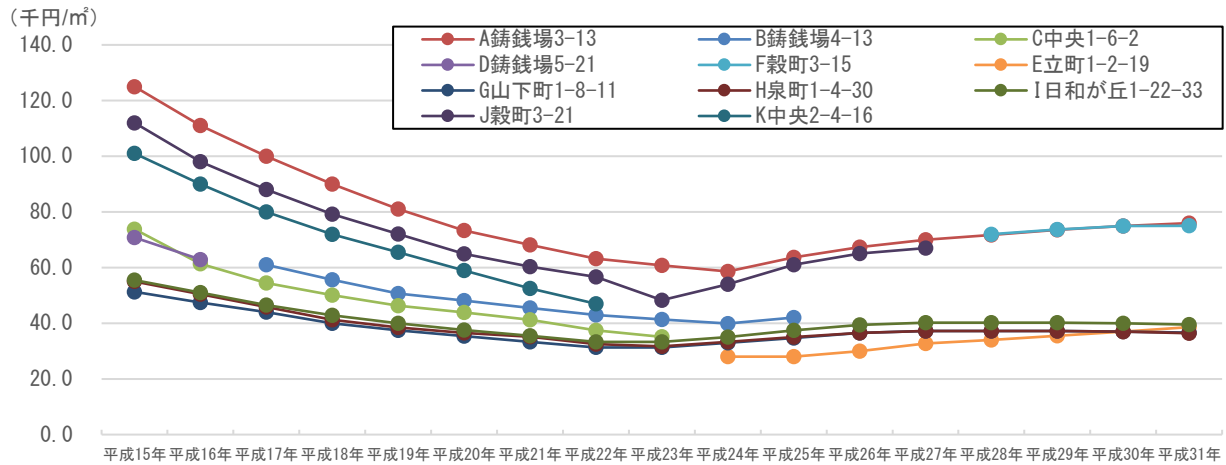


図 地価の推移

資料：「地価公示（A～E）」（国土交通省）、「地価基準（F～K）」（宮城県）

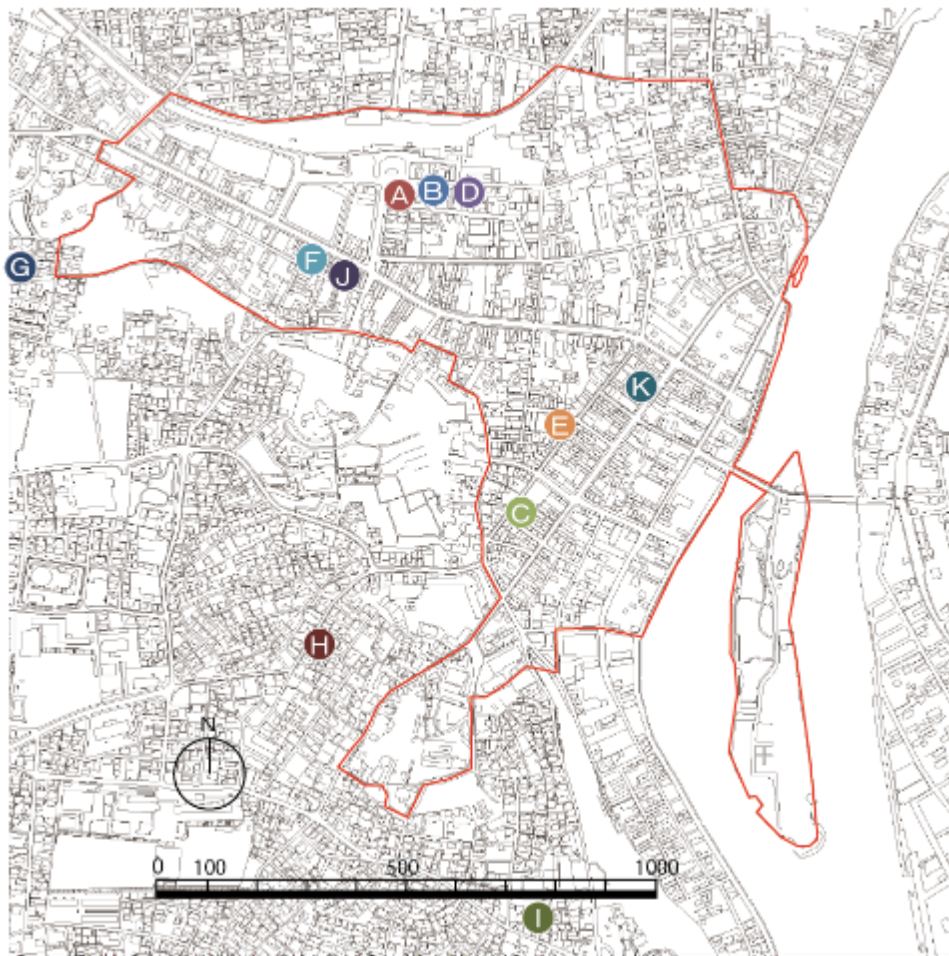
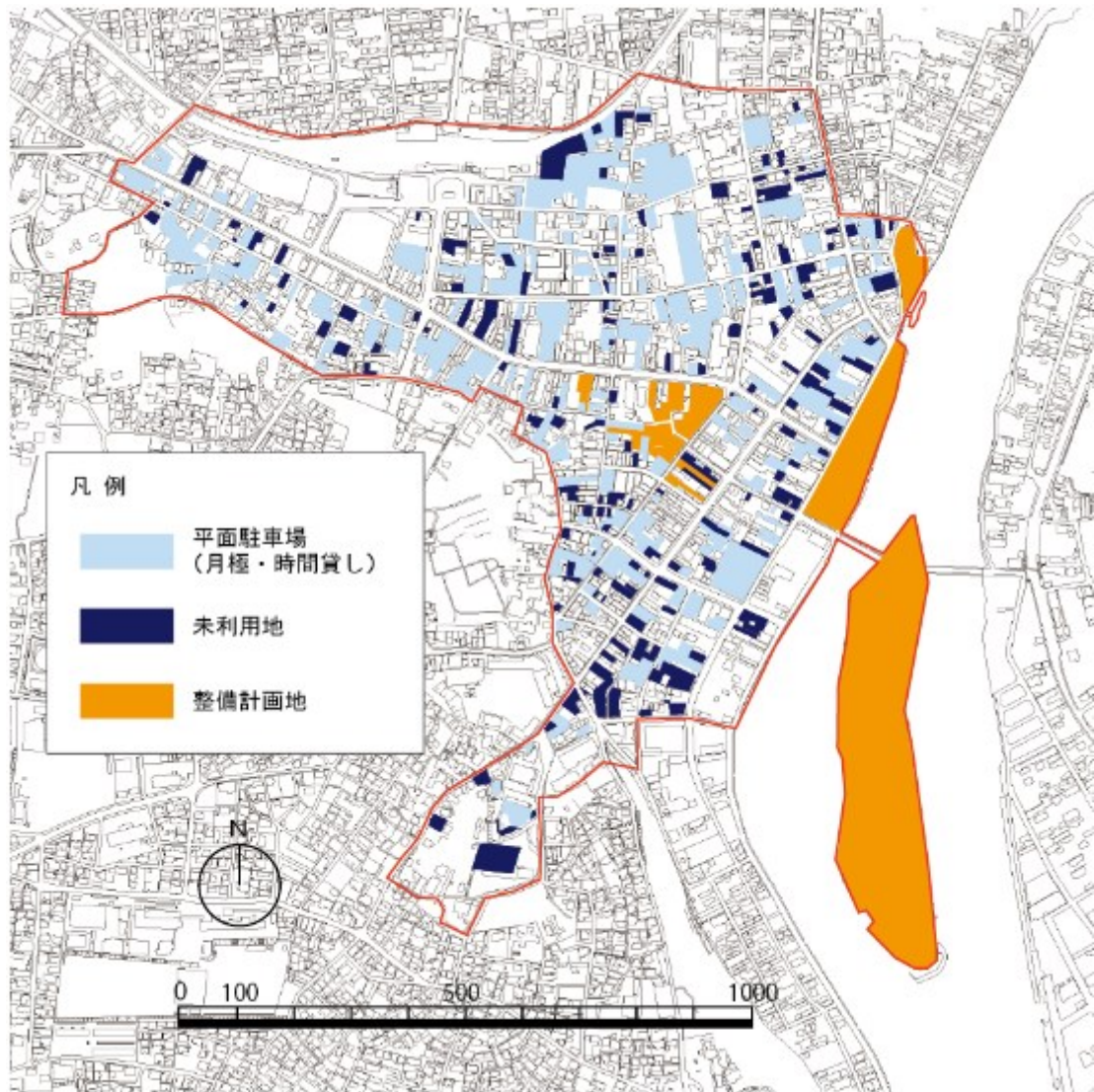


図 中心市街地内の地価調査地点

⑨ 低未利用地

- 東日本大震災で被害を受けた建物が取り壊され空き地が増えた結果、未利用地面積が大幅に増加している。
- 旧北上川沿いの低未利用地は、事業用地としての活用が計画されている。



2019年12月現地調査

図 中心市街地内の低未利用地の分布図

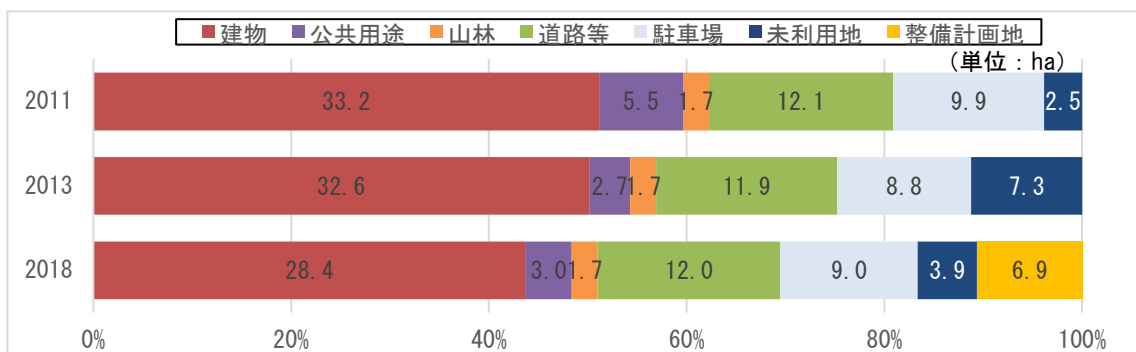


図 用途別面積の推移

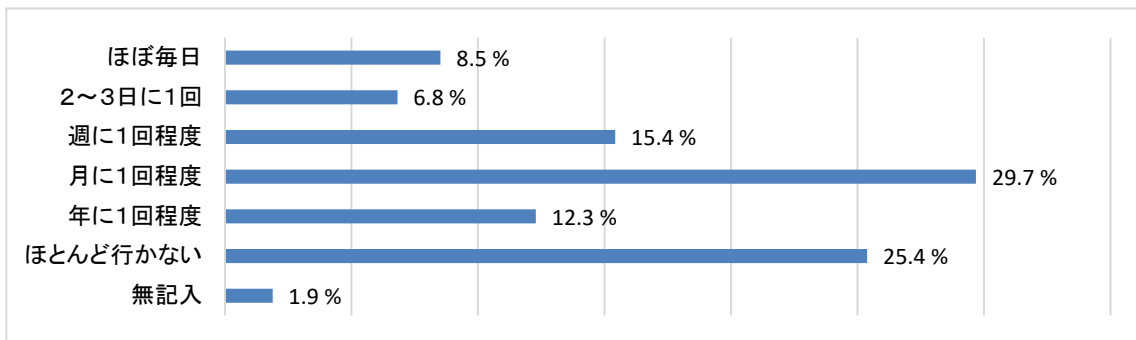
(5) 地域住民のニーズ等の把握・分析

① 市民意識調査

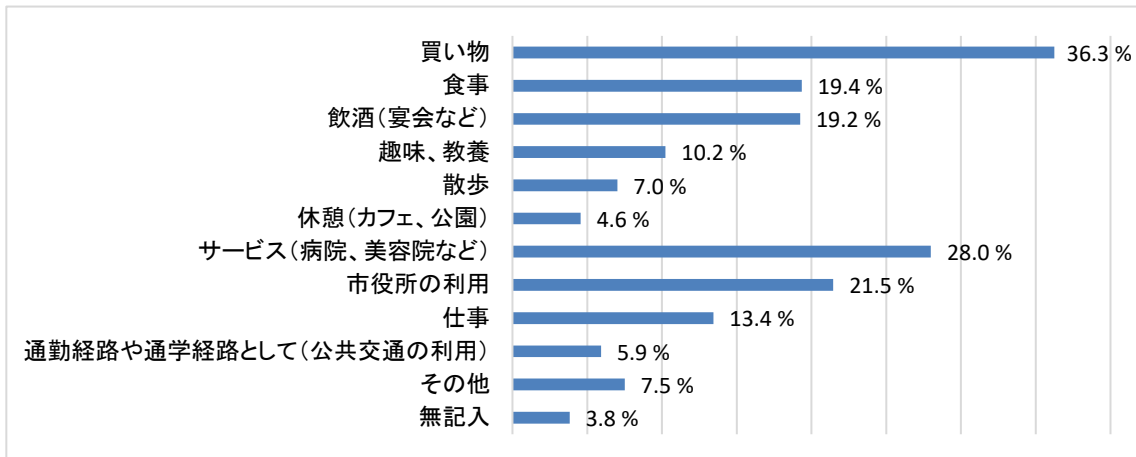
調査対象者	市内に居住する満 18 歳以上の男女（無作為抽出）
配布数	2,700 人
アンケート実施期間	令和元年 7 月 5 日～令和元年 7 月 26 日
調査方法	郵送による配布、回収
有効回答数（回答率）	1,115 人（回答率=41.3%）

I 中心市街地の利用状況等についてお伺いします。

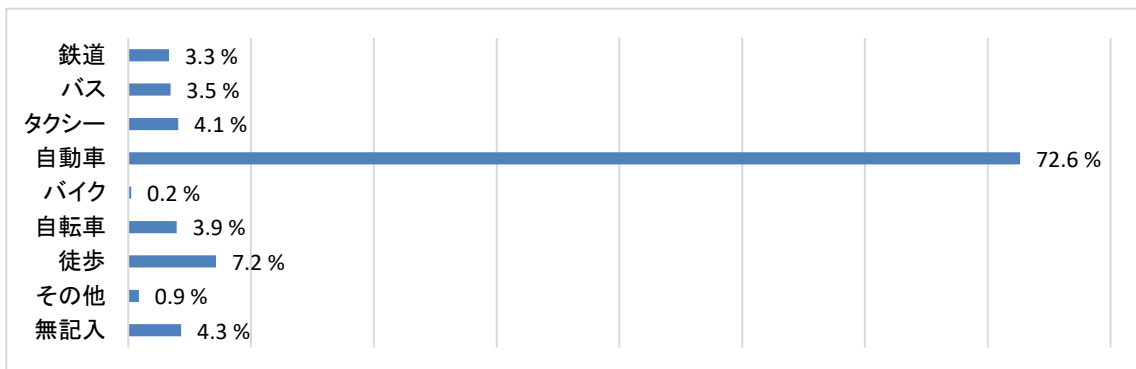
問 14 石巻市中心市街地へ出かける（利用する）頻度はどれくらいですか。（○は1つだけ）



問 15 どんな目的で石巻市中心市街地に出かけますか（利用しますか）。（○は3つまで）



問 16 主にどのような交通手段で訪れていますか。（○は1つだけ）

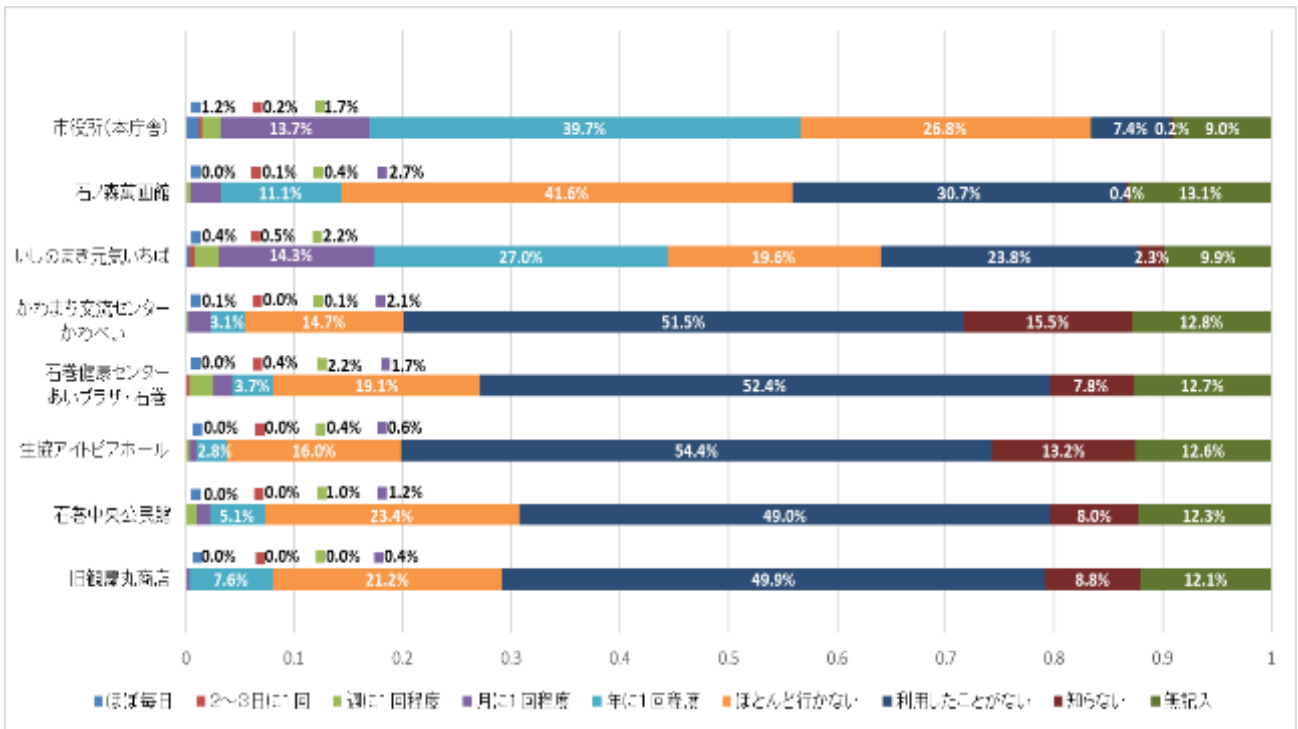


中心市街地へ出かける（利用する）頻度は、「月に1回程度」が29.7%で最も多く、次いで「ほとんど行かない」が25.4%となっております。前回調査（平成21年度）では「ほとんど行かない」が42.6%で最も多く、次いで「月1～2回」が26.3%でした。一見すると中心市街地の利用率が大幅に上昇しているように見えますが、前回調査で「ほとんど行かない」を選択した方が、今回から新設した「年に1回程度」の選択肢に分散したものと見られ、実際の利用率は微増かほぼ横ばいと思われるます。

中心市街地に出かける（利用する）目的は、「買い物」が36.3%で最も多く、次いで「サービス（病院・美容院など）」が28.0%、「市役所の利用」が21.5%となっております。

交通手段については、「自動車」が72.6%で突出して多い結果となっております。前回調査でも「自動車」が77.6%となっており、同様の傾向が続いているものと思われるます。しかし、「徒歩」が1.5%から7.2%と増加しており、「歩いて暮らせるまちづくり」を目指した施策の効果が表れているものと思われるます。

問17 この施設を知っていますか。また、どのくらいの頻度で利用していますか。



問18 問17で、旧観慶丸商店について「知っている」と回答された方に伺います。

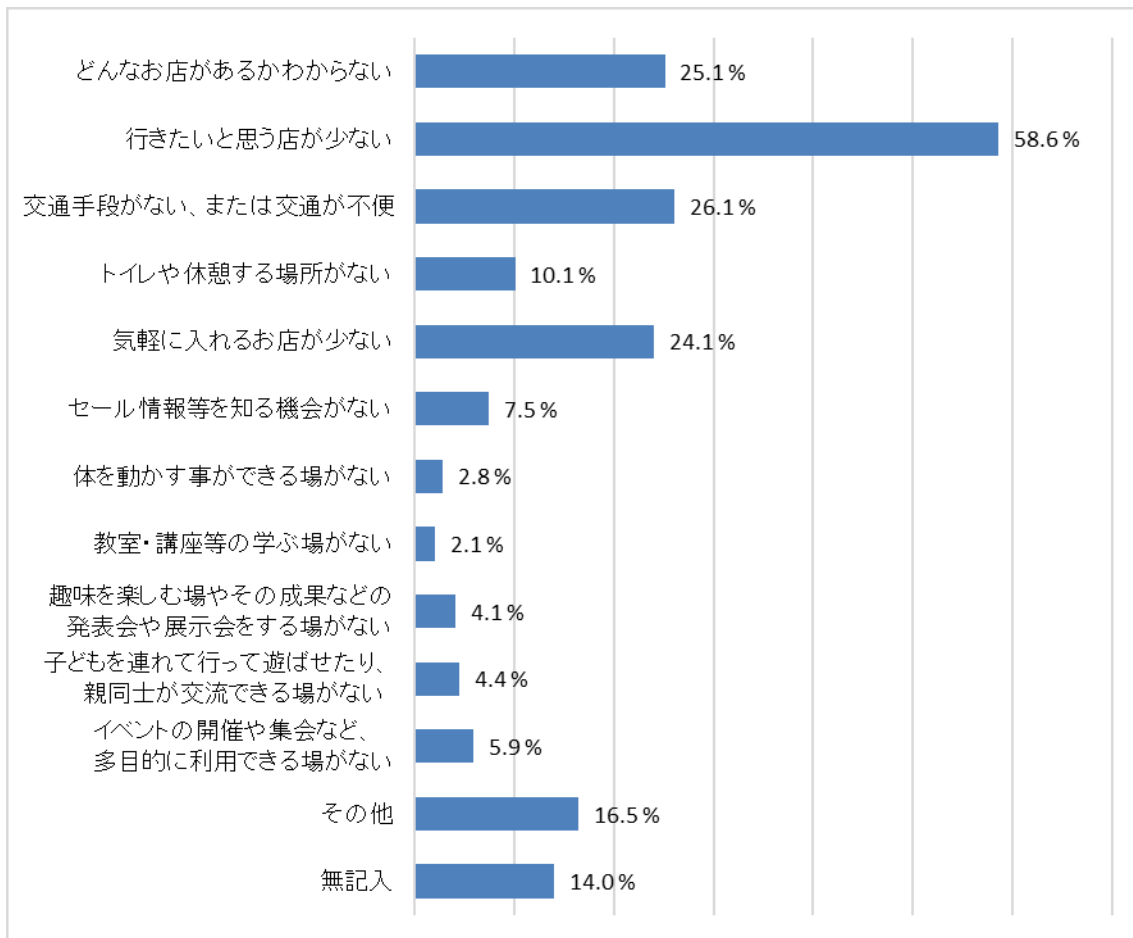
「旧観慶丸商店」が文化発信拠点として運営されていることを知っていますか。



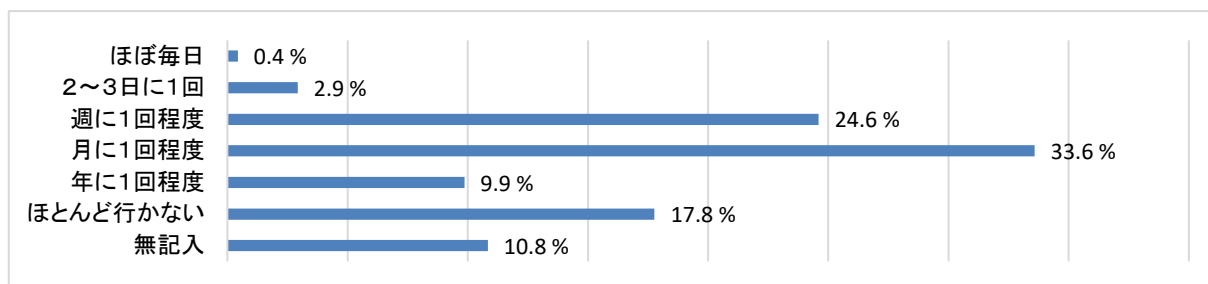
施設の認知度については、“市役所（本庁舎）”と“石ノ森萬画館”では「知らない」と答えた方がほとんどおらず、平成 29 年度にオープンした“いしのまき元気いちば”についても、ほとんどの方に認識していただいております。一方で、その他の施設は 10.0%前後の方が「知らない」と答えており、特に“かわまち交流センターかわべい”では 15.5%の方が「知らない」と答えており、平成 30 年度にオープンしたばかりではありますが、認知度の向上が今後の課題となっております。

利用の頻度については、“市役所（本庁舎）”と“いしのまき元気いちば”では「年に 1 回程度」が最も多く、“石ノ森萬画館”では「ほとんど行かない」が最も多く、年に 1 回以上利用する方は 14.3%となっております。その他の施設では年に 1 回以上利用する方が 10.0%を下回っており、利用者増が必要か否かは施設ごとの利用者の許容量が異なるため一概に言えませんが、施設を利用していない市民が多数いらっしゃるということが伺えます。なお、“旧観慶丸商店”が今年度より文化発信拠点として運営されていることを知っている方は、施設自体を知っている方のうち 49.5%となっております。

問 19 石巻市中心市街地の利用が少ない理由はなんですか。(〇は 3 つまで)



問 20 あなたは、ほとんど利用しない理由で選んだ項目が、今後解消された場合、どのくらいの頻度で、中心市街地を訪れたいですか。(○は1つだけ)

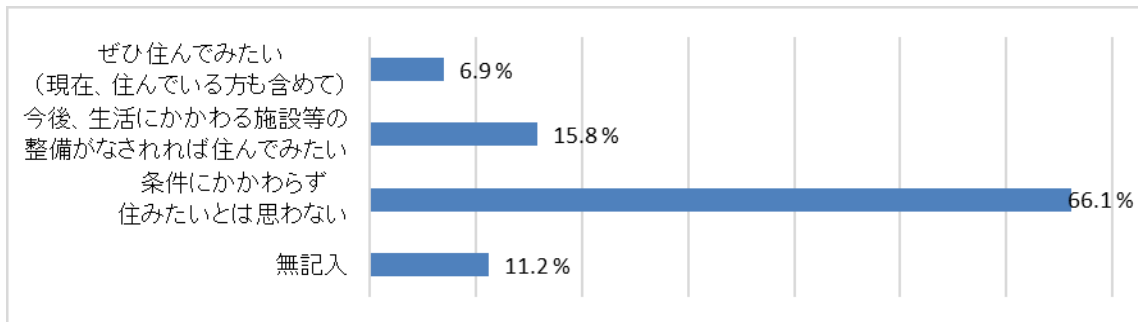


中心市街地の利用が少ない理由は、商店に係る事項が多く（「行きたいと思う店が少ない」58.6%、「どんなお店があるかわからない」25.1%、「気軽に入れるお店が少ない」24.1%）、前回調査と同様の傾向（「郊外大型店で用が足せる」60.7%、「行きたい、買いたいと思う店がない」59.4%、「気軽に飲食を楽しむことのできる場がない」38.1%）となっております。しかし、次に回答の多い「交通手段がない、または交通が不便」は26.1%であり、前回調査（「車を停める場所がない」36.5%、「交通手段がない」6.7%）よりは交通に関する理由は減少しております。また、自由記述では、無料の駐車場が無いという意見が最も多く、次いで、行く目的や理由が無いとの意見を多くいただきました。

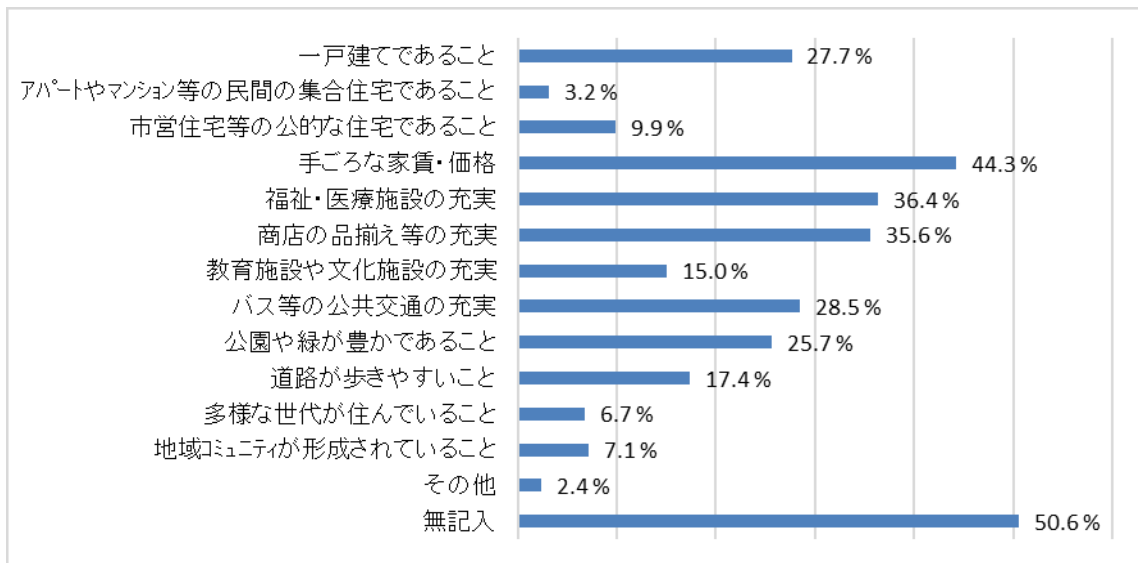
ほとんど利用しない理由が解消された場合の利用頻度については、「月に1回程度」が33.6%で最も多く、次いで「週に1回程度」が24.6%となっており、前回調査とほぼ同様の結果となっております。

II 石巻市中心市街地での居住の意向についてお伺いします。

問 21 あなたは、今後中心市街地に住むことについて興味はありますか。(〇は1つだけ)



問 22 中心市街地に居住する際に、何を重要視しますか。(〇は3つまで)

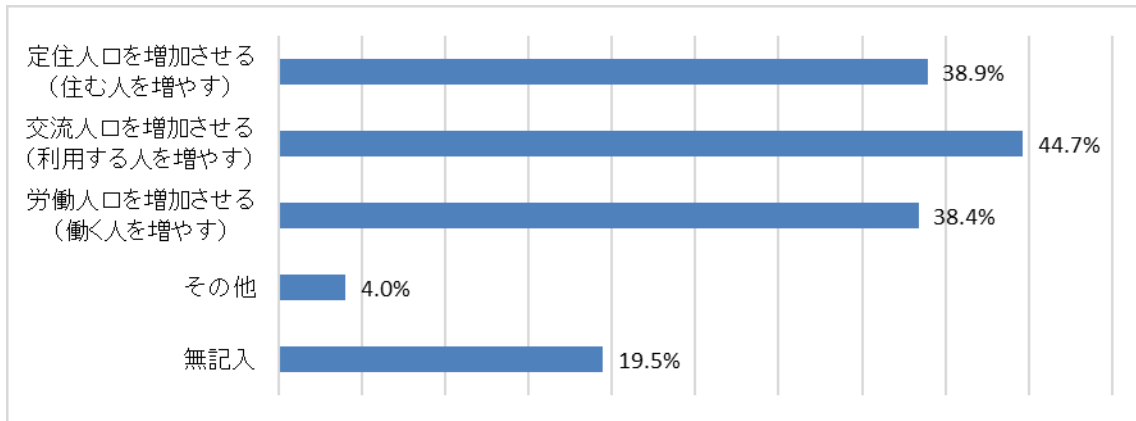


中心市街地に居住することへの興味については、「条件にかかわらず住みたいとは思わない」が66.1%で最も多くなっておりありますが、前回調査の74.0%より7.9%低下しております。また、次いで「今後、生活にかかわる施設等の整備がなされれば住んでみたい」が15.8%、「ぜひ住んでみたい (現在、住んでいる方も含めて)」が6.9%で、“住んでみたい”と答えた方の合計は22.7%となっており、前回調査の20.2%より2.5%上昇しております。

中心市街地に居住する際に重要視することは、「手ごろな家賃・価格」が44.3%で最も多く、次いで「福祉・医療施設の充実」が36.4%、「商店の品揃え等の充実」が35.6%となっております。

Ⅲ 今後のまちづくりのあり方についてお伺いします。

問 23 今後、石巻市中心市街地のまちづくりの方向として、ふさわしいと思うものはどれですか。(〇は2つまで)



問 24 石巻市中心市街地の街づくりに望むものは何ですか。(自由記述)

(抜粋)

- ・まだまだ交通面で不便だと感じる。電車やバスの時間や止まる所など増やしてほしい。
- ・行ってみたいな、と思うようなお店が入れば足をはこぶと思います。
- ・飲食店(夜)のイメージが付いた。子どもを連れて「行って楽しみたい場所」ではない。市外の人が楽しめる場所になったように感じる。だからそのまま観光地となるような温泉施設(道の駅)のような建て物が立てば良いのでは・・・?
- ・若者が好む店も少なく、高校が近くにあるのにその年代や20代の子達が、大型の商業施設に流れ、交通の便も悪いので、いつも昼間は淋しいと思えます。
- ・新しいお店などが出来ても全然わからないので、もう少し宣伝等をした方がいいと思う。
- ・蛇田にイオンがあるので、差別化した何かがあれば人も集まると思う。また、交通の面では、一方通行が多すぎて行きづらいし遠い。
- ・気軽に行ってみたくと思う様な雰囲気が感じられる街づくりにしてほしい
- ・若い人がどんどん離れていくイメージ。気軽に飲みに行けるように、蛇田やあけぼのから夜もバスを出していただけると、中心市街地に行く意欲がわく。車で行って、代行代を出してまで行こうとは思わない。
- ・自然が豊かで、子供達が安心して、遊べる公園等。
- ・治安的な意味で、商店街の雰囲気がよくないと思う。
- ・高校生が利用できるような勉強場所のような所を駅周辺にあつたらいいと思う。
- ・娯楽場を充実させて、市街地へ行きたいもしくは他にはないから行かないと思わせる施設を作してほしい。
- ・中瀬をもう少し観光して楽しい場所にしてほしい。・無料駐車場(もしくは安い)を増やしてほしい。入りやすいカフェやお休み処みたいなのがほしい。
- ・緑豊かな街、福祉、医療施設の充実 ショッピングができる街、交通手段の便利な街。

- ・ショッピングモールや大型店には無いような人が見える小さな店がたくさんできてほしい。「街ブラ」ができるエリア。単館系の映画館ができたらうれしい。
- ・図書館をもっと便利な所に移してほしい。
- ・自然（海、川、山）と共存する公園都市となしてほしい。
- ・子供支援センターのような物が欲しい。

中心市街地のまちづくりの方向としてふさわしいものについては、「交流人口を増加させる（利用する人を増やす）」が44.7%で最も多く、ほか2点は38.0%程度となっております。

問24「中心市街地の街づくりに望むもの」の自由記述では、一方通行の解消や無料駐車場の設置、バスの増便など交通利便性に係る意見が最も多く、若者が利用する施設や環境の整備、スーパー等の買い物利便性の向上、商店やイベントの情報発信、蛇田エリアとの差別化（中心市街地を移すことの検討）、自然を生かしたまちづくり、治安の改善などについてのご意見を多くいただきました。

(6) 前計画の総括

① 概要

- 第2期計画においては、「彩り豊かな“食”と“歴史が薫る”川辺のまち（市民との協働による中心市街地の復興）」を目指す「まち」の姿とした。
- 上記の「まち」を目指すための3つの基本方針として『基本方針1心が通い、安心して暮らせるまちづくり』『基本方針2水辺に親しみ、食と萬画で賑わうまちづくり』『基本方針3歩いて発見、楽しく回遊できるまちづくり』を設定した。
- 石巻市中心市街地活性化のストーリーとして、これの3つの方針に基づき「郊外店とは異なる多様な機能の集積」させ、これらにより「定住人口の増加」「交流人口の増加」に波及させることとしていた。
- また、活性化を測る目標値として、「中心市街地の居住人口」「2 施設の利用者数の増加」「歩行者・自転車通行量」を設定し、その達成に向けた事業の総合的な取組を進めた。

石巻市中心市街地活性化基本計画

目指す「まち」の姿 “彩り豊かな食”と“歴史が薫る”川辺のまち (市民との協働による中心市街地の復興)

～コンセプト～

多様な都市機能を集積し、少子高齢化社会に対応した、歩いて暮らせるコンパクトで安全・安心なまちづくり

東日本大震災の影響等により、街なか居住者が一層少なくなっている

- ・中心市街地の定住人口は減少傾向にあり、東日本大震災以降、柏車が掛かっている。
- ・少子高齢化が進展し、医療・介護・福祉などの重要性が高まっている。
- ・東日本大震災により被害を受けた地域である

安全・安心の住環境づくりによる定住人口の確保

《基本方針1》

心が通い、安心して暮らせるまちづくり

目標1

- ◆**目標指標に係る主たる事業**
 - 住宅の供給及び居住環境の向上
 - ・復興公営住宅整備事業
 - ・市街地再開発事業
 - ◆**目標指標に係る事業（抜粋）**
 - 市街地の整備改善
 - ・立町大通り再生事業
 - ・防災センター整備事業
 - ・にぎわい交流広場施設整備事業
 - ・石巻駅周辺整備事業
 - ・河川堤防整備事業
 - ・土地区画整理事業・街路整備事業
 - ・遊歩誘導表示板設置事業
 - ・まちなか遊歩訓練
 - ・かわまちづくり整備事業(水辺の緑のゾムナード)
 - 都市福祉施設
 - ・石巻市子どもセンター事業
 - ・石巻市立病院整備事業
 - ・高齢者生活支援施設等整備事業
 - ・(仮称) ささえあいセンター整備事業
 - ・石巻健康センターあいプラザ・石巻活用事業
 - ・若菜荘移転新築事業
 - 住宅の供給及び居住環境の向上
 - ・優良建築物等整備事業
 - ・地域優良賃貸住宅（高齢者型）供給促進事業
 - 商業の活性化
 - ・復興特区法に基づく税制特別（誘致特区）
 - 一体的に推進する事業
 - ・住民バス等運行事業

目標1 定住人口の増加

(指標1 中心市街地の居住人口)

川湊・石巻としての個性、賑わいが感じられない

- ・川湊として豊かな食材がもたらされた歴史があるが、食の魅力が伝えきれていない。
- ・萬画を活用し、地域の賑わい創出につながる施策の強化が求められている。
- ・中心市街地が持つ地域資源を積極的に発信

“食”と“萬画”を活用した新たな賑わいの創出

《基本方針2》

水辺に親しみ、食と萬画で賑わうまちづくり

目標2

- ◆**目標指標に係る主たる事業**
 - 商業の活性化
 - ・かわまち交流拠点形成に向けた商業施設整備によるまちなか活性化事業
 - ・石ノ森萬画館実施事業
 - ◆**目標指標に係る事業（抜粋）**
 - 市街地の整備改善
 - ・立町大通り再生事業
 - ・中瀬公園整備事業
 - ・遊歩誘導表示板設置事業
 - ・かわまちづくり整備事業(水辺の緑のゾムナード)
 - ・かわまち交流拠点整備事業
 - 商業の活性化
 - ・マンガロード整備事業
 - ・お買い物駐車場（共通駐車場）事業
 - ・中心商店街情報集約事業
 - ・食ビジネス推進事業
 - 一体的に推進する事業
 - ・住民バス等運行事業

目標2 交流人口の増加

(指標2 2 施設の利用者数)

石ノ森萬画館、生鮮マーケット

商業空間の減少と、活力の停滞、中心市街地を回遊する魅力がない

- ・廃業・移転した事業者が多く、中心市街地における商業活力が停滞している。
- ・中心市街地へのアクセス性向上と利用しやすい駐車場を望む声が多い。
- ・各団体の取組みをいかし、街なかを回遊させ

新たな中心市街地の魅力を構築し、アクセス性と回遊性を向上

《基本方針3》

歩いて発見、楽しく回遊できるまちづくり

目標3

- ◆**目標指標に係る主たる事業**
 - 都市福祉施設
 - ・かんけい丸保存活用事業
 - ・石巻市子どもセンター事業
 - ・石巻市立病院整備事業
 - 商業の活性化
 - ・かわまち交流拠点形成に向けた商業施設整備によるまちなか活性化事業
 - ・石ノ森萬画館実施事業
 - ◆**目標指標に係る事業（抜粋）**
 - 市街地の整備改善
 - ・立町大通り再生事業
 - ・にぎわい交流広場施設整備事業
 - ・石巻駅周辺整備事業
 - ・中瀬公園整備事業
 - ・遊歩誘導表示板設置事業
 - ・かわまちづくり整備事業(水辺の緑のゾムナード)
 - ・住吉公園整備事業
 - 都市福祉施設
 - ・石巻健康センターあいプラザ・石巻活用事業
 - ・文化財・旧町名表示事業
 - 商業の活性化
 - ・マンガロード整備事業
 - ・萬画による地域復興事業（まんがる堂の運営）
 - ・商店街おそてなし事業
 - ・石巻ふれあい朝市
 - ・お買い物駐車場（共通駐車場）事業
 - ・中心商店街情報集約事業
 - 一体的に推進する事業

(指標3 歩行者・自転車通行量)

② 事業進捗

- 前計画（第2期計画）は、下記に示すハード・ソフト合わせて70事業を位置づけている。
- 事業完了が21件、第3期計画へ継続掲載が35件、変更して掲載が14件であった。未実施及び中断した事業は0件であった。
- 継続事業は、震災以前から着手していたものと、令和2年度に終了予定である復興事業が中心になっている。
- 変更事業の多くは、震災後に開始され、復興の進展や街なかの現状に合わせて事業内容が見直されたものである。
- 未実施及び中断となった事業は無く、おおむね順調に実施されてきた。

【実施状況】（計画における位置づけ）

完了…旧計画期間中に完了した事業

継続…新計画においても、引き続き行う事業

変更…新計画において、内容を変更して行う事業

未実施/中断…未実施または中断している事業

1. 市街地の整備改善に係る事業

No.	事業名	実施主体	実施状況 (見込み)	概要
1	中瀬公園整備事業	石巻市	継続	令和7年度完了予定
2	石巻市流域関連公共下水道整備事業	石巻市	継続	下水道の普及率向上
3	防災センター整備事業	石巻市	完了	平成30年度完了
4	にぎわい交流広場移設整備事業	石巻市	完了	令和元年度完了見込み
5	石巻駅前立体駐輪場整備事業	石巻市	完了	平成28年度完了
6	河川堤防整備事業	国土交通省	継続	令和2年度完了予定
7	新内海橋・西内海橋整備事業	宮城県	継続	令和2年度完了予定
8	土地区画整理事業・街路整備事業	石巻市	完了	平成30年度完了
9	避難誘導表示板設置事業	石巻市	継続	令和2年度完了予定
10	かわまちづくり整備事業 (水辺の緑のpromenade)	石巻市・国土交通省	継続	令和2年度完了予定

11	かわまち交流拠点整備事業	石巻市	継続	令和2年度完了予定
12	石巻駅周辺整備事業	石巻市	継続	令和2年度完了予定
13	立町大通り再生事業	立町大通り商店街	変更	安心して楽しく歩ける街並みづくり
14	まちなか避難訓練	地域住民、商店街等	変更	防災まつり等の実施を追加して掲載
15	住吉公園整備事業	石巻市	継続	令和2年度完了予定
16	立町大通り商店街再生加速化支援事業	立町大通り商店街	完了	令和元年度完了見込み

2. 都市福利施設の整備に係る事業

No.	事業名	実施主体	実施状況 (見込み)	概要
17	かんけい丸保存活用事業	石巻市	変更	活用事業に変更
—	【再掲】かわまち交流拠点整備事業	石巻市	継続	令和2年度完了予定
18	石巻市立病院整備事業	石巻市	完了	平成28年度完了
19	高齢者生活支援施設等整備事業	石巻市	完了	平成28年度完了
20	(仮称)ささえあいセンター整備事業	石巻市	完了	令和元年度完了見込み
21	寿楽荘移転新築事業	石巻市	完了	平成28年度完了
22	石巻市子どもセンター事業	石巻市(指定管理者)	継続	子どもの遊び場の提供、社会参加の促進
23	石巻健康センター あいプラザ・石巻活用事業	石巻市(指定管理者)	継続	健康・福祉の拠点施設として各種事業を実施
24	旧石巻ハリストス正教会教会堂復元事業	石巻市	完了	平成30年度完了
25	文化財・旧町名表示事業	石巻市	継続	川湊の歴史を見つめ直し、魅力を創出

3. 街なか居住の推進に係る事業

No.	事業名	実施主体	実施状況 (見込み)	概要
26	松川横丁 共同店舗の運用によるまちづくり事業	民間事業者	継続	店舗やシェアハウスの運営
27	優良建築物等整備事業（松川横丁）	民間事業者	完了	平成 27 年度完了
28	優良建築物等整備事業（立町二丁目 4 番地区）	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
29	優良建築物等整備事業（中央二丁目 3 番地区（A 1 地区））	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
30	優良建築物等整備事業（中央二丁目 3 番地区（A 2 地区））	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
31	優良建築物等整備事業（立町一丁目 3 番地区（B 地区））	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
32	優良建築物等整備事業（中央二丁目 4 番南地区）	民間事業者	完了	令和元年度完了
33	地域優良賃貸住宅（高齢者型）供給促進事業	石巻市・民間事業者	継続	高齢者向け優良賃貸住宅入居者の家賃補助
34	復興公営住宅整備事業	石巻市	完了	平成 28 年度完了
35	市街地再開発事業 （中央三丁目 1 番地区）	民間事業者	完了	平成 27 年度完了
36	市街地再開発事業 （立町二丁目 5 番地区）	民間事業者	完了	平成 28 年度完了
37	市街地再開発事業 （中央一丁目 14・15 番地区）	民間事業者	完了	平成 28 年度完了

4. 商業の活性化に係る事業

No.	事業名	実施主体	実施状況 (見込み)	概要
38	かわまち交流拠点形成に向けた商業施設整備によるまちなか活性化事業	元気いしのまき	完了	平成 28 年度完了
—	【再掲】松川横丁 共同店舗の運用によるまちづくり事業	民間事業者	継続	店舗やシェアハウスの運営
39	石巻川開き祭り	実行委員会	継続	大正 5 年から続く祭り
40	（仮称）東北 5 大焼きそばサミット in 石巻！！～みちのくご当地グルメ大集合～	茶色い焼きそばアカデミー	完了	平成 27 年度完了
41	石ノ森萬画館実施事業	街づくりまんばん	継続	「マンガの街いしのまき」の拠点施設の運営

—	【再掲】優良建築物等整備事業(松川横丁)	民間事業者	完了	平成 27 年度完了
—	【再掲】優良建築物等整備事業(立町二丁目 4 番地区)	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
—	【再掲】優良建築物等整備事業(中央二丁目 3 番地区 (A1 地区))	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
—	【再掲】優良建築物等整備事業(中央二丁目 3 番地区 (A2 地区))	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
—	【再掲】優良建築物等整備事業(立町一丁目 3 番地区 (B 地区))	民間事業者	継続	令和 2 年度完了予定
—	【再掲】優良建築物等整備事業(中央二丁目 4 番南地区)	民間事業者	完了	令和元年度完了
—	【再掲】市街地再開発事業(中央三丁目 1 番地区)	民間事業者	完了	平成 27 年度完了
—	【再掲】市街地再開発事業(立町二丁目 5 番地区)	民間事業者	完了	平成 28 年度完了
—	【再掲】市街地再開発事業(中央一丁目 14・15 番地区)	民間事業者	完了	平成 28 年度完了
42	大規模小売店舗立地法の特例区域の指定の要請	石巻市	継続	大規模小売店舗の立地促進
43	復興特区法に基づく税制特例(まちなか再生特区)	石巻市	継続	区域内事業者の税制優遇
44	震災アプリの利活用	創生協議会・みらいサポート石巻	変更	街なか震災伝承・語り部事業に集約して掲載
45	萬画による地域復興事業(まんがる堂の運営)	街づくりまんぼう	完了	平成 27 年度完了
46	石巻に恋しちゃった♡	石巻復興支援ネットワーク	変更	平成 29 年度に完了、派生イベントを掲載
47	起業家支援事業	石巻市	継続	創業支援事業として継続
48	橋通り COMMON 運営事業	街づくりまんぼう	変更	事業名を変更し掲載
49	物産市等開催・参加支援補助事業	石巻市	継続	令和 2 年度完了予定
50	商店街おもてなし事業	商店街・商工会議所等	変更	複数事業に分割して掲載
51	石巻ふれあい朝市	(一社)石巻観光協会	継続	平成 10 年から続く朝市
52	お買い物駐車場(共通駐車場)事業	街づくりまんぼう	継続	民間駐車場の共通駐車券の発行

53	中心商店街情報集約事業	街づくりま んぼう	変更	石巻マンガロード整備活用 事業に集約して掲載
54	STAND UP WEEK	ISHINOMAKI 2.0	継続	川開きに合せて行う各種イ ベント開催
55	2.0 不動産	ISHINOMAKI 2.0	変更	空き家リノベーション事業 (巻組)に継承
56	石巻 まちの本棚	ISHINOMAKI 2.0	継続	本のあるコミュニティスペ ースの運営
57	ISHINOMAKI 金曜映画館	ISHINOMAKI 2.0	継続	市民参加型の映画上映イベ ントを開催
58	地域起業・新事業創出活動拠点運営 事業	石巻復興支 援ネットワ ーク	変更	女性創業者交流・相談事業 に変更し掲載
59	震災の語り部・震災学習	みらいサポ ート石巻	変更	市委託は令和2年度まで。 それ以降は民間事業として 掲載。
60	観光ボランティアによる市内観光案 内及び石巻・大震災まなびの案内	観光ボラン ティア協会	継続	被災地を案内しながら語り 伝え、観光客へのおもてな し向上を図る
61	ピースボート「地球一周の船旅」石巻 港入港	ピースボ ート	変更	市が行う誘致事業と集約し て掲載
62	視察オーダーメイドプログラム	ピースボ ート	完了	令和元年度完了見込み
63	石巻まるごとフェスティバル	実行委員会	完了	石巻復興フード見本市（中 活区域外で開催）に機能を 移管
64	トリコローレ音楽祭 in 石巻	実行委員会	継続	10以上のステージを設ける 音楽祭
65	子どものまち・いしのまき	実行委員会	変更	石巻市子どもセンター事業 に集約して掲載
66	まちなかコミュニティホール活用事 業（旧生協）	各団体	継続	市民が集える街なかホール の運営
67	食ビジネス推進事業	民間事業者	変更	いしのまき元気いちば運 営・石巻の食発信事業とし て変更し掲載
68	商工会議所ホール活用事業	商工会議 所・民間事 業者・各団 体等	継続	イベントやセミナーの実施 会場として商工会議所を活 用
—	【再掲】立町大通り商店街再生加速 化支援事業	立町大通り 商店街	完了	令和2年度完了予定
69	マンガロード整備事業	石巻市・街 づくりまん	継続	モニュメントの追加や情報 発信を行う

		ぼう		
--	--	----	--	--

5. 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進に係る事業

No.	事業名	実施主体	実施状況 (見込み)	概要
70	住民バス等運行事業	運行協議会	継続	乗合いタクシーの運行

区分	事業数	完了		継続		変更		未実施/中断	
		事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
市街地の整備改善	16	5	31.3%	9	56.2%	2	12.5%	0	0.0%
都市福利施設整備	9	5	55.6%	3	33.3%	1	11.1%	0	0.0%
街なか居住推進	12	6	50.0%	6	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
商業の活性化	32	5	15.6%	16	50.0%	11	34.4%	0	0.0%
公共交通機関及び 特定事業推進	1	0	0.0%	1	100%	0	0.0%	0	0.0%
合 計	70	21	30.0%	35	70.0%	14	20.0%	0	0.0%

③ 数値目標

ア) 定住人口

平成 25 年度基準値	平成 30 年度実績値	令和元年度目標値
2,777 人	2,872 人	3,812 人

- 定住人口については 2,777 人（H25）から 2,872 人（H30）へと増加しているが、H28 の 3,068 人をピークに減少傾向にある。復興公営住宅は完成したが、独居や 2 人暮らしの同居者の割合が想定以上に高かったことや、道路拡幅工事・旧北上川堤防工事による移転の影響が考えられる。ただし、計画期間中に完成予定の優良建築物等整備事業が 6 地区あり、定住人口の増加が見込まれている。

イ) 2 拠点施設の利用者数

○石ノ森萬画館の入場者数

- 前計画において、過去からの傾向が続いた場合の利用者数は 201,765 人を想定し、計画に位置づけた事業を実施することで令和元年度に推計値よりも 39,435 人の利用者増を見込んでいたことから、合計で 241,200 人となる。
- 石ノ森萬画館は、津波による大きな被害を受けた後、平成 25 年 3 月 23 日にリニューアルオープンした。平成 30 年度の利用者数は 187,150 人となっている。

○いしのまき元気いちばの利用者数

- いしのまき元気いちばについては、「石巻市観光交流施設整備計画」に基づき、観光客も地元客も来訪頻度の高い「いわき・ら・ら・ミュウ（福島県いわき市）」等の実績を基に推計し年間 1,000,000 人を目標利用者数として設定した。
- 平成 29 年 6 月にオープンして以降、地元の食材等を発信する大小さまざまなイベントを多数開催し、知名度向上に努めている。平成 29 年 11 月には隣接する場所に石巻市かわまち立体駐車場と路線バスのロータリーが完成し、平成 30 年 12 月には網地島ライン発着所が供用開始となるなど、元気いちばを含む川沿いエリアのアクセス性が高まっている。

	項 目	前計画目標 (令和元年度)	現況 (平成 30 年度)
①	石ノ森萬画館の利用者数	241,200 人	187,150 人
②	いしのまき元気いちばの利用者数	1,000,000 人	449,256 人
	合 計	1,241,200 人	636,406 人

- 前計画における令和元年度の目標は合計 1,241,200 人であるが、平成 30 年度時点での 2 拠点施設の利用者数は、636,406 人となる。
- 2 施設のうち、いしのまき元気いちばの利用者数はレジ通過者数のみで計算しており、今後來場者カウンターや監視カメラなどを利用し正確な値を求めることにより、更なる増加が見込まれ、目標値を達成するものと思われる。

ウ) 歩行者・自転車通行量

平成 25 年度基準値	平成 30 年度実績値	令和元年度目標値
15,002 人	17,790 人	16,950 人

○12 地点合計

- 平成 30 年の 12 地点 (①～ ⑫) の平日・休日合計の歩行者・自転車通行量は、17,790 人であり、前計画で目標値と設定していた 16,950 人を上回っている。

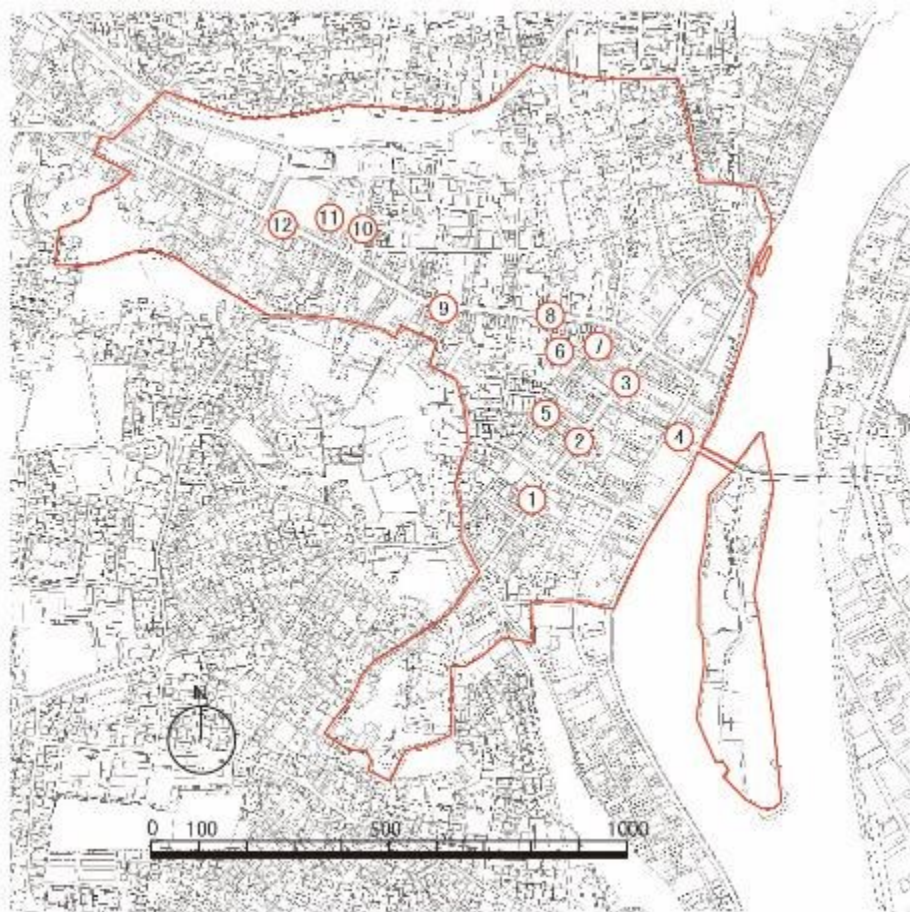


表 12 調査地点ごとの歩行者・自転車通行量の推移

単位：人

No.	地点		平成20年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	旧市役所通り	平日	890	458	634	512	578	500	402
		H20増減率	0%	-48.5%	-28.8%	-42.5%	-35.1%	-43.8%	-54.7%
		休日	556	350	234	304	164	338	294
		H20増減率	0%	-37.1%	-57.9%	-45.3%	-70.5%	-39.2%	-47.1%
2	イトピア通り	平日	1,180	492	558	412	570	466	326
		H20増減率	0%	-58.3%	-52.7%	-65.1%	-51.7%	-60.5%	-72.4%
		休日	546	496	632	332	414	336	586
		H20増減率	0%	-9.2%	+15.8%	-39.2%	-24.2%	-38.5%	+7.3%
3	イトピア中央銀座	平日	670	504	754	374	362	446	559
		H20増減率	0%	-24.7%	+12.5%	-44.2%	-46.0%	-33.4%	-16.6%
		休日	594	438	686	378	466	576	974
		H20増減率	0%	-26.3%	+15.5%	-36.4%	-21.5%	-3.0%	+64.0%
4	橋通り	平日	678	558	426	608	552	634	632
		H20増減率	0%	-17.7%	-37.2%	-10.3%	-18.6%	-6.5%	-6.8%
		休日	736	592	606	408	960	944	1,928
		H20増減率	0%	-19.6%	-17.7%	-44.6%	+30.4%	+28.3%	+162.0%
5	寿町みなみ通り	平日	482	430	294	296	422	382	328
		H20増減率	0%	-10.8%	-39.0%	-38.6%	-12.4%	-20.7%	-32.0%
		休日	420	440	338	460	408	452	584
		H20増減率	0%	+4.8%	-19.5%	+9.5%	-2.9%	+7.6%	+39.0%
6	ことぶき町ポケットパーク	平日	298	76	272	272	286	136	138
		H20増減率	0%	-74.5%	-8.7%	-8.7%	-4.0%	-54.4%	-53.7%
		休日	172	146	162	208	156	228	398
		H20増減率	0%	-15.1%	-5.8%	+20.9%	-9.3%	+32.6%	+131.4%
7	ことぶき町	平日	694	588	486	400	486	474	498
		H20増減率	0%	-15.3%	-30.0%	-42.4%	-30.0%	-31.7%	-28.2%
		休日	544	602	590	330	416	460	796
		H20増減率	0%	+10.7%	+8.5%	-39.3%	-23.5%	-15.4%	+46.3%
8	立町大通り東側	平日	1,369	1,044	871	974	692	938	848
		H20増減率	0%	-23.7%	-36.4%	-28.9%	-49.5%	-31.5%	-38.1%
		休日	924	1,118	851	644	900	835	1,236
		H20増減率	0%	+21.0%	-7.9%	-30.3%	-2.6%	-9.6%	+33.8%
9	立町大通り西側	平日	1,459	1,048	880	1,129	1,425	963	885
		H20増減率	0%	-28.2%	-39.7%	-22.6%	-2.3%	-24.0%	-39.3%
		休日	928	1,259	846	691	984	840	1,286
		H20増減率	0%	+15.7%	-8.8%	-25.5%	+6.0%	-9.5%	+38.6%
10	駅前大通り	平日	1,172	1,010	812	1,492	1,343	944	1,064
		H20増減率	0%	-13.8%	-30.7%	+27.3%	+14.6%	-19.5%	-9.2%
		休日	1,016	1,044	976	1,276	916	840	1,227
		H20増減率	0%	+2.8%	-3.9%	+25.6%	-9.8%	-17.3%	+20.8%
11	市役所おまさか通り	平日	809	664	789	883	896	618	982
		H20増減率	0%	-17.9%	-2.5%	+9.1%	+10.8%	-23.7%	+21.4%
		休日	684	289	345	292	590	266	526
		H20増減率	0%	-57.7%	-49.6%	-57.3%	-13.7%	-61.2%	-23.1%
12	穀町大通り	平日	756	846	627	771	780	572	671
		H20増減率	0%	+11.9%	-17.1%	+2.0%	+3.2%	-24.3%	-11.2%
		休日	552	510	453	367	646	424	622
		H20増減率	0%	-7.6%	-17.9%	-33.5%	+17.0%	-23.2%	+12.7%
歩行者・自転車 通行量合計	平日	10,457	7,718	7,403	8,123	8,392	6,455	7,333	
	休日	7,672	7,284	6,719	5,690	7,020	6,273	10,457	

増減率：

-60%以上	-60~-40%	-40~-20%	-20~0%	0%	0~+20%	+20~+40%	+40~+60%	+60%以上
--------	----------	----------	--------	----	--------	----------	----------	--------

○石ノ森萬画館の入場者増加による増加

- 前計画においては、いしのまき元気いちばとの相互利用により調査地点④で 1,254 人の増加、令和元年の石ノ森萬画館の入場者の増加により調査地点③⑧⑨⑩または⑦⑧⑨⑩で 232 人増加することを見込んでいた。
- 石ノ森萬画館の入場者は、平成 25 年は 241,208 人であったが、平成 30 年は 187,150 人と減少している。
- 調査地点③④⑦⑧⑨⑩の休日の通行量は増加しているが、平日の調査地点⑦⑧⑨の通行量は減少している。
- 石ノ森萬画館から商店街への回遊を見込んでいたが、調査地点③④など距離が近いところでは増加傾向が見られる一方で、駅方面への通行量の増加には結びついていないことがうかがえる。

単位：人

No.	地点		調査実施年		増減率	調査実施年(平日休日合計)		増減率
			平成 25 年度	平成 30 年度		平成 25 年度	平成 30 年度	
3	アイトピア中央銀座	平日	504	559	+11.0%	942	1,533	+62.7%
		休日	438	974	+122.3%			
4	橋通り	平日	558	632	+13.3%	1,150	2,560	+122.6%
		休日	592	1,928	+225.7%			
7	ことぶき町	平日	588	498	-15.3%	1,190	1,294	+8.7%
		休日	602	796	+32.2%			
8	立町大通り東側	平日	1,044	848	-18.8%	2,162	2,084	-3.6%
		休日	1,118	1,236	+10.6%			
9	立町大通り西側	平日	1,048	885	-15.6%	2,307	2,171	-5.9%
		休日	1,259	1,286	+2.1%			
10	駅前大通り	平日	1,010	1,064	+5.3%	2,054	2,291	+11.6%
		休日	1,044	1,227	+17.5%			

○生鮮マーケット（いしのまき元気いちば）の新規利用者による増加

- 前計画においては、生鮮マーケット（いしのまき元気いちば）の新規利用者のうち公共交通利用者の通行による増加で、調査地点③⑧⑨⑩または⑦⑧⑨⑩で 2,684 人増加することを見込んでいた。
- いしのまき元気いちばの利用者は、平成 30 年で 449,256 人（レジ通過人数）であった。実際に元気いちばを訪れた方の数はこれより多いと想定されるが、商店街への回遊については石ノ森萬画館と同様、近くの商店街への回遊はうかがえるものの、少し離れた商店街への回遊には繋がっていないと考えられる。

○市立病院の新規利用者による増加

- 前計画においては、市立病院の外来患者およびお見舞い者のうち、石巻駅から市立病院までを徒歩で移動する、または、二輪車の利用により訪れることで調査地点⑩⑪⑫のうち少なくとも一つを通過すると仮定し、522 人の増加を見込んでいた。

- 市立病院の利用者は、平成 30 年度で入院患者が 48,233 人、外来患者数が 39,638 人、合計で 87,871 人であった。いずれも平成 29 年度から増加している（入院患者数は 41,993 人、外来患者数は 30,678 人）。駅前大通り、市役所おまさか通りについては平日休日ともに増加している一方で、穀町大通りでは平日の通行量は減少している。駅や市役所庁舎と市立病院を行き来する人は見られるものの、商店街などとの相互利用につながっていない状況がうかがえる。

No.	地点		調査実施年		増減率	調査実施年(平日休日合計)		増減率
			平成 25 年度	平成 30 年度		平成 25 年度	平成 30 年度	
10	駅前大通り	平日	1,010	1,064	+5.3%	2,054	2,291	+11.6%
		休日	1,044	1,227	+17.5%			
11	市役所おまさか通り	平日	664	982	+47.9%	953	1,508	+58.2%
		休日	289	526	+82.0%			
12	穀町大通り	平日	846	671	-20.7%	1,356	1,293	-4.6%
		休日	510	622	+22.0%			

○子どもセンターの新規利用者の増加

- 前計画においては、子どもセンターの利用者のうち公共交通を利用して訪れる人が調査地点⑧⑨⑩のうち少なくとも一つは通過すると仮定し、112 人の増加を見込んでいた。
- 子どもセンターの来館者数は、平成 29 年度は 26,917 人、平成 30 年度は 27,722 人となっている。立町大通り東側、立町大通り西側いずれも平成 25 年度に比べて平日は減少しているが、休日は増加している。一方で、駅前大通りは平日、休日ともに増加している。

No.	地点		調査実施年		増減率	調査実施年(平日休日合計)		増減率
			平成 25 年度	平成 30 年度		平成 25 年度	平成 30 年度	
8	立町大通り東側	平日	1,044	848	-18.8%	2,162	2,084	-3.6%
		休日	1,118	1,236	+10.6%			
9	立町大通り西側	平日	1,048	885	-15.6%	2,307	2,171	-5.9%
		休日	1,259	1,286	+2.1%			
10	駅前大通り	平日	1,010	1,064	+5.3%	2,054	2,291	+11.6%
		休日	1,044	1,227	+17.5%			

④ 前計画の総括

- 前計画（第 2 期計画）は、平成 23 年 3 月の東日本大震災の影響により第 1 期計画の計画期間を短縮して認定を受けた計画であった。そのため、復興公営住宅整備事業や石巻市立病院整備事業等の震災復興に係るハード面の整備が主な事業となっており、中心市街地における拠点形成という意味では概ね順調に進捗し、居住人口や通行量等の目標指標も達成度合いに差はあるものの全て改善している。
- しかし、店舗や事務所数の減少や、低未利用地の拡大等の震災以前から抱える未解決の課題のほか、復興住宅を含めた中心市街地全域のコミュニティ形成や、新たに形成された拠点施設で生まれた賑わいをどう中心市街地全体に波及させるかなど、新たな課題も生まれている。

(7) 中心市街地活性化に向けた課題の整理

① 安全・安心・居住

震災復興事業により、復興公営住宅や河川堤防の整備が行われたが、中心市街地内のコミュニティ形成が課題となっている。また、生活拠点機能の充実や利便性の向上、市民と地域の繋がりの強化などによる、安全・安心のまちづくりが必要である。

② 観光客による賑わい

川沿いエリア付近の通行量が急増した一方で、他の地点では減少している箇所さえあり、川沿いエリアから商店街や駅方向への観光客の誘導が課題。また、地域資源を十分に生かし更なる観光客の増加を図る必要がある。

③ 市民による賑わい

比較的観光客向けと言える施設が集積した川沿いエリアに通行量が集中しており、その他のエリアでの石巻市民による活動が見えてきづらい状況にある。震災以降増加した市民活動団体の活動や相互連携を促進すること等により、文化や市民活動の中心としての石巻市民による賑わいを創出し、石巻に暮らすことの楽しみや生活の質の向上を図る必要がある。

(8) 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

① 中心市街地活性化の必要性

本市の中心市街地は、古くは、北上川水運と沿岸船運の結節拠点として栄えた港町であり、中瀬地区から石巻駅にかけて、行政機能や金融機関、商店等が集積する石巻の歴史特性を象徴する地域である。

県下第2の都市・石巻の中核として発展を続けてきたが、近年の消費者のライフスタイル(生活様式)の変化やニーズの多様化、モータリゼーションの進展に伴う郊外型大型店の進出、さらには長引く景気の低迷等によって消費者の購買意欲が減少するなど、さまざまな問題を抱え、中心市街地の商業は衰退傾向にある。

さらに、東日本大震災以降は、人口減少の加速、低未利用地の急激な増加等のこれまでの課題の顕在化に加え、地盤沈下や交通結節点としての機能低下等、新たな課題も浮かび上がってきた。そうした状況の中、復興事業を中心に3つのエリアを核に公共・民間事業による投資活動を行い、中心市街地内の居住人口および交流人口を指標に定め、その増加に努めてきた。震災から8年が経過し復興事業は概ね完了を迎え、完成した施設の活用を図りつつ新たな投資活動を呼び込んで行くことで活性化を図るエリアマネジメントを目指していく段階にある。多様な分野にまたがって活動する多くの主体が存在する中心市街地では、エリアマネジメントを進めるにあたっていくつかのエリア・分野に分けてマネジメントを考えていく必要がある。

- (ア) コミュニティマネジメント(主な主体:町内会、包括支援センター、社協等)
- (イ) かわまちエリアマネジメント(主な主体:石巻市、街づくりまんぼう等)
- (ウ) 市民活動団体の支援連携マネジメント(主な主体:石巻市、NPO団体等)
- (エ) 商店街マネジメント(主な主体:商店街、街づくりまんぼう、石巻市等)
- (オ) 有休不動産マネジメント(主な主体:石巻市、街づくりまんぼう、民間事業者等)

② 中心市街地活性化の基本方針

中心市街地における現況、課題などを踏まえて、中心市街地活性化の基本コンセプト、基本方針を以下のように設定する。

<目指す中心市街地の都市像>

“石巻らしさを生かし、市民の誇りと
石巻に暮らすことの豊かさを醸成できるまち”

<中心市街地活性化基本計画のコンセプト>

多様な都市機能を集積し、少子高齢化社会に対応した、
歩いて暮らせるコンパクトで安全・安心なまちづくり

この基本コンセプトを標榜しつつ、中心市街地活性化に向けて整理した 3 つの課題に各々対応すべく、以下に、石巻市中心市街地再生への 3 つの基本方針を設定する。

基本方針 1 中心市街地のコミュニティの醸成による安全・安心のまちづくり

- 堤防、避難施設の整備などハードのみならず、地域住民同士のコミュニティを形成することで、地域の安全・安心をつくる。
- 避難訓練、賑わい創出イベント等を通して、互いに声を掛け合える関係性を築く。
- 子どもから年配者まで地域で見守る関係づくりにより、生活利便性や生活満足度の向上につなげ、転出の抑制や移住・住み替えの増加を図る。

基本方針 2 地域の資源を生かした歩きたくなるまちづくり

- 駅前エリア、中央・立町エリア、川沿いエリアの 3 つの拠点を中心に、萬画（マンガ）、食、震災伝承、歴史等地域資源を活用したイベント等に取り組む。
- 特に、石ノ森萬画館やいしのまき元気いちば、かわまち交流センターが立地する川沿いエリアについては、それぞれの施設間の連携を強化するとともに、多様な主体の参画による堤防空間の利活用を積極的に図っていくことで中心市街地への集客力を高める。
- 既存店など商店街との共同による販促や集客イベントを企画開催するなどプロモーション活動を継続して行い、商店街への集客力の向上と新たな事業者の募集を図っていく。

基本方針 3 地域の活力・市民の息づかいが見えるまちづくり

- 社会的市民的活動を行う団体の活動を活発化し、市民交流の機会を増やし賑わいを生み出す。
- 市民団体間の積極的な情報共有や発信により、コミュニティの醸成や地域課題の解決に向けた新たな取り組みの創発を促す。